

2020年度
海洋教育パイオニアスクールプログラム
(地域展開部門)

「地域に根ざした海洋教育」
実践記録集



大阪府阪南市教育委員会

阪南市の海洋教育について

1. 海洋教育に取り組む意義

阪南市は、森・里・川・海が近接し、交じり合うロケーションにあり、これらに支えられる人々が暮らすまちである。

市内には大阪湾の中でも貴重な自然海岸と、尾崎・西鳥取・下荘の3漁港があり、古くから「たこつぼ漁」や「地引き網漁」が行われてきた漁業が盛んな地域である。現在も、昔ながらの方法で「のりやワカメの養殖」が営まれていたり、「カキの養殖」が行われていたりするなど、海と近い生活が息づいている。

学校現場においては、海に比較的近い小学校を中心に、以前から地域の海をテーマとした教育活動を行っている。内容としては、児童にとって身近な存在である大阪湾に生息する生き物や地域の産業として漁港で働く人々について学んだり、実際にアマモ場の再生活動を行ったりすることにより、自分たちの住む地域が海と大きく関わっていることについて理解を深めている。

2018年11月には、阪南市を会場として「全国アマモサミット 2018in 阪南」を開催し、大阪府下で最大規模のアマモ場を擁する阪南の海のすばらしさ、その海を保全・再生させることに携わる人々の活動について発信した。

この全国アマモサミットの開催により高まった地域の自然環境への関わりや保全意識をサミット後も継続、さらに発展させていくことが大切である。海洋教育では、海での活動を通して阪南市の自然のすばらしさを知り、その自然環境を守っていくために主体的、協働的な学習を進めていくことにより、自ら課題を解決していく力をつけていくことをねらいとしている。

2. 海洋教育の実施体制

2019年4月に「阪南市海洋教育推進協議会」の設置要綱を制定し、協議会を立ち上げた。協議会は、学識経験者、海洋教育を行う学校の代表者、外部有識者、市行政職員で構成し、海洋教育実施における課題解決及び新たなプログラム開発に関することなどについて協議を行っている。また、海洋教育の円滑な推進を図るために、各校の海洋教育担当者、外部有識者、市行政職員等で構成する「企画運営部会」を置いている。

3. 海洋教育実施校

初年度となる2019年度は、西鳥取小学校、下荘小学校、舞小学校の3校でスタートをした。2020年度は、新たに尾崎小学校が実施校として加わるとともに、西鳥取小学校を教育課程特例校として取り組みを進めた。2021年度からは上荘小学校が加わり、小学校5校を中心として海洋教育に取り組む予定である。

4. 2020年度 海洋教育年間スケジュール

月	2020年度の市の取組
4	年間計画の立案
5	
6	「阪南セブンの海の森活動」参加（6月20日） 第1回 企画運営部会（6月23日） ・今年度の市及び学校の活動について
7	第1回 海洋教育推進協議会（7月6日） ・会長、副会長等の選出 ・2019年度事業報告及び決算報告 ・2020年度事業計画案及び予算案についての協議
8	海洋教育研修会（8月18日） ・講演 NPO海辺づくり研究会 理事 木村 尚 氏 NPO法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター専務理事 岩井 克巳 氏 ・海洋実践研修 生きもの観察、地引き網体験、安全講習
9	
10	第2回 企画運営部会（10月2日） ・各校の活動状況について ・グリーンインフラ・ネットワーク・ジャパン全国大会について 第3回 企画運営部会（10月22日） ・グリーンインフラ・ネットワーク・ジャパン全国大会について ・2021年度 海洋教育パイオニアスクールプログラム 申請について
11	グリーンインフラ・ネットワーク・ジャパン全国大会に参加（11月8日） ・市及び実践校の取組発表 第2回 海洋教育推進協議会（11月26日） ・市及び実施校の活動状況について ・2021年度 海洋教育パイオニアスクールプログラム 申請について
12	第4回 企画運営部会（12月17日） ・海洋教育実践報告会について ・実践記録集について
1	第5回 企画運営部会（1月14日） ・海洋教育実践報告会について
2	海洋教育実践交流（2月） ・実施校同士が取組をまとめたポスターによる交流を実施 第15回海の再生全国会議 in 神戸に参加（2月17日） ・市の取組について発表
3	実践記録集作成



5. 令和2年度 海洋教育研修会

目的 講演を通して海洋教育を行う意義や海洋を取り巻く現状について理解を深めるとともに、教職員自らが海での活動を体験することで海洋教育の楽しさについて知る機会とする。

日時 令和2年8月18日（火）
午前10時00分～午後4時30分（受付：午前9時45分）

場所 午前：阪南市役所 3階 全員協議会室
午後：社会福祉法人三秀会 海薨
海薨前海岸

対象者

- ・海洋教育実施校教職員
- ・環境教育担当者等
- ・各公立幼稚園・小中学校の初任者（悉皆）

次第

10:00 開会あいさつ
10:05 講演
NPO海辺づくり研究会 理事 木村 尚 氏
NPO法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター専務理事 岩井 克巳 氏
11:30 休憩、移動
12:45 着替え
13:00 海洋実践研修（小雨決行）
・生きもの観察 ・地引き網体験 ・安全講習
15:00 着替え
15:30 生きもの同定作業
16:30 終了

持ち物 飲み物、昼食（午後の開始時刻に間に合うようであれば外で食べても構いません）
水着、水着の上から着る服等（深いところまで入る場合もあります）、
マリンシューズ（または濡れてもよい靴）※サンダルは不可、着替え、タオル、
日よけ（帽子など）、軍手、マスク、印鑑



令和2年度 海洋教育年間指導計画			阪南市立尾崎小学校											
学年	関連等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1年生					<ul style="list-style-type: none"> ・ビーチミング ・海の生き物を描こう ・ビーチプレートをつくろう 		<ul style="list-style-type: none"> ・うみのかくれんぼ 							
	関連教科・学習等				生活科 図画工作科		国語科							
2年生					<ul style="list-style-type: none"> ・ビーチミング ・漂流物を使って作ろう ・リサイクルを探そう 									
	関連教科・学習等				生活科 図画工作科									
3年生					<ul style="list-style-type: none"> ・海藻おしぼを作ろう 									
	関連教科・学習等				総合 図画工作科									
4年生				<ul style="list-style-type: none"> ・海洋教育初エフ→ヨリ 			<ul style="list-style-type: none"> ・水辺の学校：男里川 	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺の学校：尾崎海岸 						
	関連教科・学習等			総合			理科 総合	理科 総合						
5年生				<ul style="list-style-type: none"> ・海洋教育初エフ→ヨリ 	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業ってなに？ ・尾崎漁港へ行こう ・私たちの漁業 			<ul style="list-style-type: none"> ・大漁旗を描こう ・漁師さんへの聞き書き 	<ul style="list-style-type: none"> ・漁師さんから聞きました(新聞づくり) ・7月産卵づくり・播種 	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの海でワカメを育てよう 		<ul style="list-style-type: none"> ・育てたワカメを収穫しよう ・ワカメを佃煮にしてみよう 		
	関連教科・学習等			総合	総合 社会科			図画工作科 社会科 総合	総合	総合			総合 家庭科	
6年生				<ul style="list-style-type: none"> ・海洋教育初エフ→ヨリ ・7月花採採取 ・生き物観察 		<ul style="list-style-type: none"> ・私たちにできること 	<ul style="list-style-type: none"> ・7月種子選別 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsを知ろう 						
	関連教科・学習等			総合		国語科	総合	総合					総合	

5年 単元名 海とともにいきる

阪南市立尾崎小学校

1. 単元目標

漁港で働く人々の海と共に生きる姿を通して、自分たちの町にある漁港や大阪湾での漁業、海の文化や歴史に関心を持ち、わが町の誇りとしてとらえ海と関わることができるようにする

2. 単元の評価基準

○知識・技能

「漁港での仕事」「漁港で働く人々」について調べたことを通して、自分たちの暮らす町と海が密接に関わっていることを理解する。

○思考力、判断力、表現力等

漁港で働く人々の様子や仕事の内容を知ることを通して、自分たちの暮らす町と海との関わりについて、新聞などの表現物に表す。

○学びに向かう力、人間性等

漁港で行われている漁法や漁師さんの仕事に関心を持ち、知りたいことや疑問に思ったことを積極的に調べ、自分たちの暮らす町に誇りをもつ。

3. 単元の指導計画（全 14 時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1～2	尾崎漁港を知る ○校区に広がる尾崎の海で昔から営まれてきた漁業について漁港を見学し、尾崎の海や漁師という仕事に関心を持つ。 (2) ・私たちの海でこんな魚がとれるんだ ・せりってどういう雰囲気で行われるのかな。	※漁港見学前に、事前に尾崎漁港ではどのような漁法で漁をしているのか、その漁法でどんな魚がとれるのかななどについて考えさせておく。 ☆NPOの方に事前学習として漁法についてレクチャーしていただく。
2	3～12 (本時)	海で働くことを知る ○漁師さんへ聞いてみたいことを考える。(2) ・漁師さんになった理由は何だろう。 ・漁師さんの仕事をしていてよかったことは何だろう。 ○漁師さんへ聞き書きをする。(4)(4/4 本時) ・漁師さんの仕事ってすごいなあ。 ・魚をとるってとても大変なことなんだな。 ○聞き書きしたことを新聞にまとめ伝える。(4)	○社会科の学習において、漁業の抱える問題点や漁法の種類について事前に学び、漁港見学の際に知ったことなどをもう一度想起させておく。 ☆NPOの方に事前学習として、聞き書きの方法などをレクチャーしてもらう。 ○国語科「きいて、きいて、きいてみよう」で学んだインタビューの仕方を確認しておく。 ○ボイスレコーダーなどで聞いたことを録音し、まとめの学習に活かす。
3	13～15	海で育てる ○アマモの苗床づくりをする。(1) 6年生が採取したアマモの種を海に植える。 ○わかめの種系付けをする。(1) 尾崎漁港で行われているわかめの養殖を体験する。 ○わかめの収穫を行う。(1) 種系付けをおこなったわかめを収穫する。	☆NPOの方に当日現場でアマモの植え方などのレクチャーをしてもらう。 ○海に植えるだけではなく、学校内に水槽を用意し、成長を見られるようにする。

4	16 ・ 17	海とともに生きる(2) ○一年の活動をふり返る。 一年間をかけておこなってきた活動をふり返り、「海とともにいきていく」ために何が大切かを考える。	○今年一年の活動を通して、地域に海があることやその海で働くことの大切さを考えさせる。
---	---------------	--	--

4. 他教科等との関連

○国語科「きいて、きいて、きいてみよう」

- ・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えあう内容を検討する。
- ・話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる。

○社会科「水産業のさかんな地域」

- ・水産業に従事している人の工夫や努力、現在の問題点や今後に向けての取り組みなどについて理解する。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・漁港で働く方に話を聞き、自分たちの町の水産業について知る。
- ・漁港で働く事について知り、自分たちの暮らす町と海が密接に関わっていることを理解する。

(2) 本時の指導計画

時間 (分)	学 習 活 動	指導上の留意点
5	○自己紹介をする。 クラスの代表があいさつをし、聞き書きさせてもらう漁師さんの名前を知る。	○事前にクラス代表を決めておく。 クラス代表の役わり ・はじめ、終わりのあいさつ ・質問中のタイムキーパー ・司会 ○聞き書き中の音声をボイスレコーダーで録音しておく。
35	○各グループから質問をしていく グループ別のテーマ ①漁師さん自身について ②漁師さんが主に行う漁法について ③主にとる魚について ④漁師さんの一日について ⑤海の環境と、その変化について ⑥漁業協同組合の活動や仕事について	○事前にグループを決め、質問を考え、まとめさせておく。 ○質問時間は、1グループ5分。 途中で時間が来た場合は、その質問が終わったら終了とする。 また時間が余ったら、別グループの子が聞いたことから質問をさせる。
5	○お礼を伝える クラスの代表があいさつをし、今日聞いたことのお礼を伝える。	

6. 成果と課題

- 取り組みの前は、尾崎漁港や漁協でどのような仕事があるのか、どのようなことをしているのかを知っている児童はほとんどいなかった。しかし、今年度の取り組みを通して、自分たちの町で、スズキやタコがつれたり、ワカメの養殖をしていることを知ることができた。その中で、尾崎という町の歴史を感じ、働くことについて考えようとしている児童が多くみられた。
- それぞれの流れの中で単発で行った感じが強く、子どもたちの中には、海について考えるのではなく、イベント事のような捉え方をしているものもいた。今後は、1つひとつの活動を系統性を感じさせ、どう地域と海を中心につながっていくかを意識させて学習させていきたい。

6年 海を元気に！ ～大阪湾 再生プロジェクト～

阪南市立尾崎小学校

1. 単元目標

自分たちの住むまちにある尾崎の海での生き物観察やアマモの再生活動を通して、生物の多様性や海の豊かさを知り、海辺の環境と人々の生活との関わりについて考え、自然環境を守る実践力を養う。

2. 単元の評価基準

○知識・技能

大阪湾の中で、阪南市の海岸が数少ない自然海岸であることや、実際に尾崎の海の生き物を観察したり、アマモ場の再生活動に携わったりすることで、生物の多様性や海の豊かさを知る。また、自分たちの生活がそれらの環境に与えている影響について調べている。

○思考力、判断力、表現力等

調べたことをもとに、阪南市の環境問題やその解決のためにできることを効果的に発信しようとしている。

○学びに向かう力、人間性等

身の回りの環境問題に対して、意欲的に粘り強く、他者と関わりながら課題解決に取り組もうとしている。

3. 単元の指導計画（全9時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1～3	<p>私たちの地域にある海を取り巻く環境はどのような様子になっているのだろう。</p> <p>○オリエンテーションで、今の大阪湾の状況を知る。</p> <p>○なぜ、アマモの再生活動を行うのかを知り、自分たちも尾崎の海を元気にするためにできることはないか考える。</p> <p>○アマモの花枝採取活動とともに、生き物観察をすることで、海の生き物に直に触れ、尾崎の海の豊かさを知る。</p>	<p>○今の大阪湾の様子について、映像を見せながら、興味を持たせる。</p> <p>☆NPOの方による海洋教育オリエンテーション・フィールドワーク。</p>
2	4～8 (本時)	<p>自分たちの生活が環境に与える影響について考えよう。</p> <p>○海洋ごみや水質汚染について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪湾では、魚よりプラスチックごみの方が多くなるかもしれない。 ・水質汚染の原因で、家庭からの排水が占める割合が多い。 <p>○大阪湾の環境を改善するために、自分たちができることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイクロプラスチックについて、みんなに知らせてみる。 ・マイバックの活用を呼びかける。 ・洗剤の使い過ぎ防止や、食べ残しを排水に流さないよう、食品ロスをうったえるポスターを校内に掲示する。 	<p>○学校図書館司書に、海の環境に関する本を集めてきてもらい、学習期間中教室前に置き、学年の児童がいつでも閲覧できるようにする。</p> <p>○自分たちが毎日実行できることを考えさせる。</p>
3	9	<p>大阪湾の環境保全につながる活動への協力を呼びかけよう。</p> <p>○児童集会で呼びかけたり、作成したポスターを掲示したりして、大阪湾の自然環境を守る活動の協力を呼びかける。</p> <p>○学習を振り返る。</p>	<p>○ポスターや階段掲示物をつくり、校内の児童に呼びかける。また、児童集会でも呼びかける。</p>

4. 他教科等との関連

○国語科「私たちにできること」

- ・身の回りにある問題を取り上げ、それに対する解決方法を提案する文章を書く。

○理科「生物どうしのつながり」「自然とともに生きる」

- ・生物のつながりについて興味・関心を持ち、生物と環境についての考えをもつことができるようにする。

- ・身近な環境問題を調べ、生物と環境との関わりについての考えをもつことができるようにするとともに、自然を大切にしようとする態度を育てる。

○道徳「タマゾン川」

- ・自然環境に関する課題について理解し、自ら自然環境を大切にしていこうとする態度を育てる。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・自分たちの生活と大阪湾の環境への影響を知り、大阪湾の環境保全に向けて自分たちにできることを考える。
- ・取り組みを広めるために、全校児童へ伝える方法について話し合い、具体的な取り組みについて見通しを持つことができる。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
10	<p>「尾崎の海」を守るために私たちにできることは何だろう。</p> <p>○これまでの学習を振り返り、課題意識を持ち、自分たちにもできることを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このままでは、大阪湾では魚よりプラスチックごみの量が多くなってしまふよ。 ・6月に行った尾崎の海では、思っていたよりたくさん生き物がいたから、アマモ場の再生を続けて、豊かな海にしていきたい。 	<p>海のコミ</p> <p>マイクロプラスチック</p> <p>生物の関わり</p> <p>ごみの体積変化</p> <p>ゴミを減らすのに、協力しませんか？</p>
25	<p>「海を元気に！～大阪湾再生プロジェクト～」の計画を考えよう。</p> <p>○現状や問題点を確認し、その解決方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海辺でレジ袋がいくつも埋まっていた。もっとマイバッグの活用をみんなに伝えてみてはどうだろう。 ・理科で「食物連鎖」を学習した時、「生物濃縮」 <p>「マイクロプラスチック」という言葉が出ていたよ。もう少し詳しく調べてみたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介してもらったSDGsについても関連させることができるはずだよ。 <p>○活動内容を決め、各班で、具体的な準備や計画について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のみんに伝えるには、どんなポスターがいいかな。 ・提案する文章を分担して書こう。 ・効果的に伝えるために、ポスターを掲示する場所も考えよう。 	<p>食品ロスを減らそう！</p> <p>自分のお皿に盛られた給食は完食していますか？</p>
10	<p>○学習を振り返ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼びかけるだけでなく、自分たちも努力しよう。 ・多くの人に、協力してほしい。 	<p>○呼びかけるだけに終わらず、自分たちが率先して実行するよう意識させる。</p>

6. 成果と課題

そばに海があるにもかかわらず、漁業従事者の保護者がほとんどいないことや、海水浴場ではないため、校区内の海辺に下りたことがない児童が多くいた。

アマモの花枝採取と生き物観察をスタートにしたことで、児童の地域の海への興味はとても高まったようである。今年スタートした取り組みなので、当該学年の児童は、その他の体験活動や地域の漁業についての学習を積み上げてきていないためか、地域の海を守ろうという思いを強く持てない児童もいた。来年度以降は、それらの学習を生かして、より深い学びにつなげていきたいと思う。

令和2年度 海洋教育年間指導計画		阪南市立西島取小学校											
学年	関連等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生							ビーチコーミング(浜辺の生き物探し)						
	関連教科・学習等						生活/図工(フォトフレーム作り)						
2年生					まちたんけん(海のこころ)		ビーチコーミング(浜辺の生き物探し)						
	関連教科・学習等				生活		生活/図工(フォトフレーム作り)		アマモ活動引継ぎ アマモの苗床づくり・播種				
3年生					海藻おしぼ教室				理科・総合			理科・総合	
	関連教科・学習等				図工		アマモ種子選別		アマモ活動引継ぎ			海苔すき体験	
4年生							アマモ花枝採取・生き物一斉調査						
	関連教科・学習等						総合/社会「暮らしを支える水」		総合/国語「新聞を作ろう」			総合	
5年生							田植え						
	関連教科・学習等						総合/社会「暮らしを支える水」		稲刈り		ワカメ種系付け	ワカメ収穫	
6年生							稚魚放流						
	関連教科・学習等						総合/社会「暮らしを支える水」		総合/社会科「農業について」		総合/社会科「農業について」	総合/家庭科「調理実習」	実践報告会
							総合/家庭科(給食アイデア募集)						総合/国語「リーフレットを作ろう」

1・2年 単元名「ビーチコーミングを楽しもう」(海に親しむ)

阪南市立西鳥取小学校

1. 単元目標

自分たちの住んでいる地域の浜辺に打ち上げられた漂着物や見つけた生き物を収集したり、観察したりすることによって海に親しむ心情を育てる。

2. 単元の評価基準

○知識・技能

西鳥取の海に生息する生き物について、本やパンフレットを使って調べ学習をして学ぶ。収集した貝殻についてインターネットで調べて種類などを知る。

○思考力、判断力、表現力等

ビーチコーミングを行い、収集したものや見つけたものについて、感じたことやわかったことをわかりやすく他者に伝えるために工夫して表現する。

○学びに向かう力、人間性等

西鳥取の海や浜辺にいる生き物や収集物に興味をもち観察している。分かったことや、調べたことをまとめて友だちに伝え合っている。

3. 単元の指導計画(全3時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	○阪南市の海について考える。 ・海での体験について話し合うことや、阪南市の海に生息する生き物が載っているパンフレット、本を見て生態系を知る。【生活】	○児童が海の生き物について調べられるように、図鑑などを準備する。
2	2 3 (本時)	○ビーチコーミングを行う。 ・身近な海に生息する生物を知ったり、海岸などに打ち上げられた漂着物を収集し、観察したりする。【生活】 ・収集した貝殻やシーグラス、見つけた生き物についてわかったことや感想をワークシートにまとめて紹介する。【生活】	○海辺での活動の危険な行為や注意点を事前に指導する。 ※準備物 カメラ ☆外部講師に講師依頼 ○ワークシートに記入する観点を伝える。(見たこと・さわったこと・おったこと・聞いたこと・感じたこと)
3	4	○持ち帰った貝殻やシーグラスでフォトフレームを作成する。【図工】	○準備物 フォトフレーム・紙粘土・ボンド

4	5	○チリメンモンスターを探す。【生活】	☆外部講師の方たちが準備を行ってくれた。
---	---	--------------------	----------------------

4. 他教科等との関連

○生活科「みつけたひみつをつたえよう」

・浜辺で見つけた貝殻やシーグラス、生き物について観察したり、調べたりしてわかったことをワークシートにまとめて友だちに紹介する。

○図工科「工作」

・フォトフレームに紙粘土を付ける。その上に貝殻やシーグラスを装飾する。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

収集した貝殻やシーグラス、生き物を観察したり、調べたりしたことをワークシートにまとめて紹介する。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準・準備物
1	○ビーチコーミングの感想や見つけたものを調べてわかったことをワークシートにまとめて、学級で紹介し合う。	○ワークシートに記入する観点を伝える。(見たこと・さわったこと・おったこと・聞いたこと・感じたこと)	○自分の考えを伝えようとしている。(学びに向かう力、人間性等)

6. 成果と課題

【子どもの感想から】

- ・西鳥取の海には、たくさんの貝殻やシーグラスがあることを知って楽しかった。
- ・貝殻や生き物の種類をもっと調べたいと思った。

3・4年 「西鳥の海守り隊になろう」(海を知る・海を守る)

阪南市立西鳥取小学校

1. 単元目標

「海のゆりかご」と呼ばれるアマモの育成に携わることで、海の生き物や環境について学び、海を守り育もうとする意識を高め、環境保全学習に取り組む姿勢を育てる。

また、海について学んだことや感じたことを表現するために必要な知識や手法を身に付け、積極的に他者に伝えお互いの考えを交流しようとする態度を養う。

2. 単元の評価基準

○知識・技能

西鳥取の海に生息するアマモや浜辺の生物の生態について、上級生からの引継ぎや講師の先生からの話、また調べ学習を通じて学ぶ。

アマモの苗床の成長記録や浜辺の生き物調査から、観察や調べ学習の手順やまとめ方について身に付ける。

○思考力、判断力、表現力等

アマモの育成や生き物調査などそれぞれの活動を行う際、より深く探求するために必要な手立てを考える。

アマモの育成や清掃活動、生き物調査を通じて知ったことや思ったことを他者に伝えるために、何を主たるテーマとするのか、また、どんな情報があるのか知らないかを精査し、より分かりやすく伝えるために工夫して表現する。

○学びに向かう力、人間性等

西鳥取の海について知識を得る中で興味・関心を高め、より深く学ぼうとする。

お互いに学んだことや思ったことを表現しあい交流することで、共に協力して環境保全学習に取り組もうとする。

3. 単元の指導計画(全6時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	アマモの育成を引き継ごう ○4年生からアマモの育成活動について学ぶ。 ・アマモとは何か、何をしたのかを知る。	○4年生が調べたものやまとめたものを3年生に紹介するための準備と指導を行う。
	2	○アマモの苗床を作り、校内で育てる。 ・ポットで苗床を作る手順を学ぶ。 ・アマモをどのように育てるか学ぶ。 ※毎日出席番号順で観察記録をつける。 写真を撮って、コメントを一言書く。	○理科室にアマモを育成する水槽を設置する。 ☆外部講師に講師依頼 ※準備物(講師さんが持参) ・水槽・観察シート・カメラ

	3	<p>○海へアマモの種を蒔きに行く。</p> <p>・紙粘土に種を埋めてアマモの種を蒔く。</p>	<p>・振り返りワークシート</p> <p>○海へ引率しアマモの種を蒔く。</p>
2	4	<p>西鳥の海クリーンアップ作戦</p> <p>○海辺の清掃活動をする。</p> <p>・どのくらいゴミがあったか、どんなゴミがあったかを体験から学ぶ。</p> <p>※社会科・国語科とリンクしてゴミ問題について新聞作成</p>	<p>○海へ入っての活動の危険な行為や注意点を事前に指導する。</p> <p>○海へ引率し、苗床の移植と清掃活動を行う。</p> <p>☆外部講師に講師依頼</p> <p>※準備物(講師さんが持参)</p>
	5	<p>○アマモの苗床を移植する。</p> <p>・アマモを移植することで海がどう変化しているかを知る。</p>	<p>・育てたアマモの苗床</p> <p>・振り返りワークシート</p>
3	6	<p>西鳥の海博士になろう</p> <p>○アマモの花枝を採取する。</p> <p>・アマモの花枝を観察し、どんなところに育っているかを知る。</p>	<p>○海に引率し、アマモの花枝採取と生き物調査を行う。</p> <p>☆外部講師に講師依頼</p> <p>※準備物(講師さんが持参)</p>
	7	<p>○地引網を体験する。</p> <p>・浜辺にどんな生き物がいるのか観察する。</p>	<p>・防水デジタルカメラ(多数)</p> <p>・振り返りワークシート</p>
4	8	<p>西鳥の海を紹介し隊</p> <p>○アマモの種子選別を行う。</p> <p>・以前採取した花枝からとった種をピンセットで一つずつ取り出す。</p> <p>・白いものや赤いものなど、種の違いを知る。</p>	<p>☆外部講師に講師依頼</p> <p>※準備物(種は講師さんが持参)</p> <p>・取分け用大皿・匙を各12</p> <p>・個人用小皿・ピンセットを各30</p> <p>・種入れ用大皿を12</p> <p>・振り返りワークシート</p>
	9	<p>○アマモや浜辺の生き物について紹介する。</p> <p>※つけていたアマモの観察記録を活用する。</p>	<p>○アマモや浜辺の生き物について、それぞれテーマを決めて、伝えたい内容に応じて観察記録や調べた内容からパンフレットを作る。</p>
	11	<p>※以前作成した新聞も参考にする。</p> <p>・観察記録や調べ学習の内容をまとめる。</p> <p>・生き物調査で観察した生き物について調べ、まとめる。</p> <p>※調べ学習は総合で、作成は国語で行う。</p>	<p>○紹介する際原稿も作成する。</p>
	12	<p>○後輩に引き継ぐ。</p> <p>・3年生に活動を紹介し、引き継ぐ。</p>	

4. 他教科等との関連

○国語科

- ・「新聞を作ろう」：海岸の清掃活動や清掃工場の見学を通じて、ゴミ問題についてそれぞれが関心を持ったテーマで新聞を作成する。
- ・「パンフレットを作ろう」：西鳥取の海について紹介するために、アマモや海辺の生き物についてパンフレットを作成する。

○社会科

- ・「ゴミの処理と活用」：海岸の清掃活動や清掃工場の見学とリンクして学習を進める。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

アマモの育成や浜辺の生き物調査等の体験や、社会科で学んだ清掃工場やゴミの問題について学んだことを整理し、西鳥取の海について知ったこと・海の環境を守るためにできることを話し合い、それを伝えるためのパンフレットを作成する。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点	評価基準
10	○海洋教育で学んだことを思い返す。 ・アマモのこと ・西鳥取の海にすむ生き物のこと ・海のゴミのこと などなど ○アマモ場のある西鳥取の海は非常に貴重な砂浜であることを再確認する。	○これまでの活動を自由に振り返る。	○これまでの学習を振り返って学んだことをあげることができたか。 【学びに向かう力、人間性等】
25	○西鳥の海をパンフレットで伝える。 ・個々で今の西鳥取の海の魅力を伝え、守っていくためにどんなパンフレットすればよいか考える。 ・学級で個々の意見を交流し、パンフレットに載せる内容や構成を話し合う。 ・パンフレットの内容に応じて担当者を決める。	○西鳥取の海についての紹介にとどまるのではなく、この海の環境を守って育てている活動が行われていることに気付かせ、自分たちもその一員となっていることを伝えることができるようにする。	○活動を通じて、西鳥取の海についての知識をまとめることができたか。 【知識・技能】 ○伝えたい内容をどうすればより伝わるのか、見出しや構成、文章表現で工夫できたか。 【思考・判断・表現】
10	○学習内容を振り返る。 ・改めて西鳥取の海について学んだことを振り返り、環境保全に対する意識を高める。		

6. 成果と課題

【子どもの感想から】

・種子選別は小さい種を別々に分けるので根気が必要で特に大変でした。でも、種子選別をしないと3年生が海に種を投げられないし、僕が3年の時は今の5年生が選別をしてくれたと思ったので頑張りました。でも、他にも楽しいことはたくさんあったし、海に入って花枝採取をしたことが特に楽しかったです。理由は、海に入る機会なんてあまりないし、アマモの種をたくさん採ってまたほかの人に植えてもらって、海をきれいにしたかったからです。

・私は、地引網を海から引き揚げるのが大変でした。理由は、地引網がとても重かったし、海の方に引きずられていくので、手の力がとてもいるからです。楽しかったことは、アマモの近くにいる魚を見つけたことです。理由は、アマモがあるところは深いのでそこまで行くのも楽しかったし、魚を見つけて新しい発見をできたことが楽しかったです。

・海の活動で、一番大変だったことは、種の選別をしたことです。小さい種を、一粒一粒とっていくのが大変で手がいたくなるほどやったので一番心に残りました。また、地引網で魚を捕ったことも大変でした。地引網を引くとき、とても力がいりました。地引網でとった魚を一匹ずつ紹介してくれて、とても勉強になりました。

・私は、海の中へ入って魚やカニを捕まえるのが楽しかったです。一匹くらいしか魚はとれなかったけど、他の子は何匹も魚やカニなどをとっていました。大変だったことは、種を分けたことです。一つ一つが小さくて、ピンセットでつかむのも指がつかれたし、大変でした。でも、楽しかったです。私は魚のことはあまり知らないけど、私たちは、海の近くで暮らしているので、これからも、海のことをたくさん知っていけるといいなと思います。

・海の学習で一番思い出に残ったのは、魚たちを観察したことです。なぜならアマモを育ててそのアマモを隠れ家として使ってくれてうれしかったからです。大変だったことは、雨の中、海に行ってアマモの種を詰めた紙粘土を投げたことです。寒い中でも、海まで歩いて行ったことも覚えています。一番苦勞したのは種子選別です。なぜかという、黒い泥みたいなところから種の色分けをしないといけないから慎重に見分けないといけないので苦勞しました。でも、魚たちはアマモがあって安心して暮らせるし、海もきれいになるのもそのためなら苦勞してもやろうと思いました。

5年 海洋教育 「西鳥の漁港でのようすを体験しよう」

(海を利用する・海を守る・海を伝える)

阪南市立西鳥取小学校

1. 単元目標

わが校のすぐそばにある西鳥取漁港で行われているワカメの養殖に携わることで、養殖漁業の工夫や課題を学び、これからも持続的に養殖漁業が行われていくにはどうすればよいのかを考えようとする態度を養う。

漁港見学を行うことで、西鳥取漁港ではどのような漁法で漁業がおこなわれているかを知る。また、漁港で働く漁師の方の話をまとめ、苦労や課題を解決するためにはどうすればよいか表現するのに必要な手法を身につける。

2. 単元の評価基準

○知識・技能

西鳥取漁港の漁業について、漁師の方・講師の先生からの話、また調べ学習を通じて学ぶ。

ワカメの養殖の仕方を学び、自分たちで行ってみる。また、収穫したワカメを用いて調理実習を行い、郷土特有のワカメ料理について学ぶ。

○思考・判断・表現

ワカメの養殖体験や調理実習といった活動を行う際、より深く探求するために必要な手立てを考える。

ワカメの養殖や漁港見学から学んだことや知ったことをうまく伝えるためにはどうすればよいのかをグループで模索し、工夫して表現する。

○学びに向かう力・人間性

グループ発表の場で感じたこと、思ったことを表現しあい、交流することで、協力して海の環境を守ることに取り組もうとする態度を育てる。

3. 他教科等との関連

○社会科

- ・「水産業のさかんな地域」：漁港見学に行く前に、漁業の種類や漁船のようす、漁港のようすを学習しておき、漁港見学の際に事前学習とリンクさせて進めていく。

○家庭科

- ・「食べて元気に!ご飯とみそしる」:自分たちで養殖したワカメを具材にして味噌汁を作ることにより、手間をかけて食材を届けている水産業の方への感謝の気持ちを持ち、海の環境保全に努めようとする態度を育てる。

4. 単元の指導計画 (全15時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ☆外部連携
1	1	水産業について知る(社会科) ○わたしたちの食生活と水産物について学ぶ。 ・食卓に並ぶ水産物の量はどれほどなのかを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪湾のようすについても触れておく。 ・西鳥取漁港のようすについて、想像させておく。 ・前年度の「のりすき体験」でのお話と関連付けて、想像しやすくする。
	2	○日本の周りの漁場について学ぶ。 ・日本を取り巻く海流には暖流・寒流の二種類があり、豊富な種類の水産物が獲れる恵まれた漁場であることを知る。	
	3	○沖合漁業について学ぶ。 ・沖合漁業でとれる水産物や漁法(まきあみ漁等)について知る。	
	4	○漁港のようすについて学ぶ。 ・漁港に併設されている施設の役割を知る。	
	5	・水揚げされてから各家庭に届くまでの過程を知り、鮮度を保つための工夫がなされていることを知る。	
	6	○養殖業について学ぶ ・のりの養殖がさかんな地域について知る。	
	7	○養殖業の課題について学ぶ。 ・養殖業と密接にかかわるのは、海の環境だということに着目し、これからも継続して養殖業を続けていくにはどうすればよいか考える。	

2	8・9 10 11 (本時)	○漁港見学に行く。 ・西鳥取漁港に行き、そこで働く漁師の方のお話を聞く。 ・聞いたことの振り返りから、いくつかテーマを決め、新聞に書く。 ・書いた新聞をグループで発表する。	・ワークシートを準備し、聞いたことのメモを取るようになる。 ☆外部講師のお話・西鳥取漁港の漁師さんのお話
3	12 13	○ワカメの養殖を体験する。 ・西鳥取漁港に行き、ワカメの養殖についてのお話を伺う。 ・漁師の方々のご指導の下、ワカメの種付けを体験する。 ・再び西鳥取漁港に行き、自分たちが種付けをしたワカメを収穫する。	・ワークシートを準備し、種付けから収穫まで行った感想や漁師の方や外部講師のお話を聞いて思ったこと・感じたことを記入する。 ☆外部講師のお話・西鳥取漁港の漁師さんのお話
4	14・15	○収穫したワカメを使って、みそしるを作る。(家庭科) ・自分たちで種付けをして、収穫したワカメを調理実習の具材に使い、味わう。	・収穫したワカメの味の感想や、食卓に届くまでの様々な人々の努力や苦労に対して感じたこと・思ったことを、ワークシートに記入する。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

西鳥取漁港の漁師の方の話聞き、西鳥取漁港で行っている漁業の工夫、苦労や課題などを知る。

また、社会科で学習したことと関連付け、このまま継続して漁業を続けていくためにできることを話し合い、新聞にまとめ、発表することができる。

時間	児童の活動	指導上の留意点	評価基準・準備物
5	○発表を聞く際の注意点を聞く。	○発表の内容を最後に交流できるようにメモを取るなどをするよう声掛けをする。	・ワークシート
20	○グループ発表をする。	○児童全員に伝わるよう、大きな声で発表するように声掛けをする。	◎テーマに沿って発表できている。 (思・判・表)
15	○グループ同士の意見交流を行う。	○あらかじめ、どこのグループと交流を行うか、決めておくよう声掛けをする。	◎自分の意見を持ち、発言できている。 (学びに向かう力、人間性等)

5	○ふりかえりをワークシートに記入する。	○これからも漁業を継続して行えるようにするには、どのようにすればよいかを考えるよう声掛けをする。	◎他のグループとの交流を踏まえ、改めて自分の意見を持つことができている。 (学びに向かう力、人間性等)
---	---------------------	--	--

6. 成果と課題

今回の活動では、西鳥取漁港で漁業を営んでいる方のお話の中で、漁業をする際の工夫や努力を知ることができた。エサの種類を一つ変えるだけでも漁獲量が変わってくることに驚いた児童もいた。漁船に乗せてもらった時も、漁船についている様々な機械をみて興味津々のようだった。

課題に対する思いは、海を取り巻く環境の整備が必要不可欠であることがわかったようで、海のゴミ拾いをしたり、有害物質を流さないようにしたりしていきたいという感想が多くみられた。また、水産物への感謝の気持ちを忘れないよう、購入した水産物を大切に食べるようにしたいといった感想が見られた。今回の経験を忘れないように、これからも海の環境保全について児童とともに考えていきたいと思う。

漁業新聞

①漁業とは？
漁業とは、魚や貝類、藻類などを捕獲することです。漁業には、魚を捕獲するための漁具や漁船が必要です。

②漁具の種類
漁具には、魚網、魚籠、魚罟、魚釣、魚採りなどがあります。

③漁船の種類
漁船には、漁船、漁艇、漁船などがあります。

④漁業の歴史
漁業の歴史は古く、人類の生活に欠かせない食料の一つです。

⑤漁業の現状
漁業の現状は、資源の減少や環境汚染の影響を受けています。

⑥漁業の未来
漁業の未来は、持続可能な漁業の実現にあります。

⑦漁業の楽しみ
漁業の楽しみは、新鮮な魚を捕獲することです。

⑧漁業の苦労
漁業の苦労は、天候や資源の減少などです。

⑨漁業の誇り
漁業の誇りは、伝統的な漁業の技術です。

⑩漁業の感謝
漁業の感謝は、新鮮な魚を食べてくれる人です。

⑪漁業の夢
漁業の夢は、持続可能な漁業の実現です。

⑫漁業の希望
漁業の希望は、漁業の発展です。

⑬漁業の理想
漁業の理想は、漁業の繁栄です。

⑭漁業の目標
漁業の目標は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

⑮漁業の使命
漁業の使命は、新鮮な魚を提供することです。

⑯漁業の責任
漁業の責任は、資源の持続可能な利用です。

⑰漁業の義務
漁業の義務は、環境保護と資源管理です。

⑱漁業の権利
漁業の権利は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

⑲漁業の自由
漁業の自由は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

⑳漁業の平等
漁業の平等は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉑漁業の正義
漁業の正義は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉒漁業の誠実
漁業の誠実さは、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉓漁業の忍耐
漁業の忍耐は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉔漁業の謙虚
漁業の謙虚さは、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉕漁業の礼儀
漁業の礼儀は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉖漁業の節制
漁業の節制は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉗漁業の中庸
漁業の中庸は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉘漁業の平和
漁業の平和は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉙漁業の寛容
漁業の寛容は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉚漁業の忍耐
漁業の忍耐は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉛漁業の謙虚
漁業の謙虚さは、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉜漁業の礼儀
漁業の礼儀は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉝漁業の節制
漁業の節制は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉞漁業の中庸
漁業の中庸は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉟漁業の平和
漁業の平和は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊱漁業の寛容
漁業の寛容は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊲漁業の忍耐
漁業の忍耐は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊳漁業の謙虚
漁業の謙虚さは、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊴漁業の礼儀
漁業の礼儀は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊵漁業の節制
漁業の節制は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊶漁業の中庸
漁業の中庸は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊷漁業の平和
漁業の平和は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊸漁業の寛容
漁業の寛容は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊹漁業の忍耐
漁業の忍耐は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊺漁業の謙虚
漁業の謙虚さは、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊻漁業の礼儀
漁業の礼儀は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊼漁業の節制
漁業の節制は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊽漁業の中庸
漁業の中庸は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊾漁業の平和
漁業の平和は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊿漁業の寛容
漁業の寛容は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

魚海新聞

①漁業とは？
漁業とは、魚や貝類、藻類などを捕獲することです。漁業には、魚を捕獲するための漁具や漁船が必要です。

②漁具の種類
漁具には、魚網、魚籠、魚罟、魚釣、魚採りなどがあります。

③漁船の種類
漁船には、漁船、漁艇、漁船などがあります。

④漁業の歴史
漁業の歴史は古く、人類の生活に欠かせない食料の一つです。

⑤漁業の現状
漁業の現状は、資源の減少や環境汚染の影響を受けています。

⑥漁業の未来
漁業の未来は、持続可能な漁業の実現にあります。

⑦漁業の楽しみ
漁業の楽しみは、新鮮な魚を捕獲することです。

⑧漁業の苦労
漁業の苦労は、天候や資源の減少などです。

⑨漁業の誇り
漁業の誇りは、伝統的な漁業の技術です。

⑩漁業の感謝
漁業の感謝は、新鮮な魚を食べてくれる人です。

⑪漁業の夢
漁業の夢は、持続可能な漁業の実現です。

⑫漁業の希望
漁業の希望は、漁業の発展です。

⑬漁業の理想
漁業の理想は、漁業の繁栄です。

⑭漁業の目標
漁業の目標は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

⑮漁業の使命
漁業の使命は、新鮮な魚を提供することです。

⑯漁業の責任
漁業の責任は、資源の持続可能な利用です。

⑰漁業の義務
漁業の義務は、環境保護と資源管理です。

⑱漁業の権利
漁業の権利は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

⑲漁業の自由
漁業の自由は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

⑳漁業の平等
漁業の平等は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉑漁業の正義
漁業の正義は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉒漁業の誠実
漁業の誠実さは、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉓漁業の忍耐
漁業の忍耐は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉔漁業の謙虚
漁業の謙虚さは、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉕漁業の礼儀
漁業の礼儀は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉖漁業の節制
漁業の節制は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉗漁業の中庸
漁業の中庸は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉘漁業の平和
漁業の平和は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉙漁業の寛容
漁業の寛容は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉚漁業の忍耐
漁業の忍耐は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉛漁業の謙虚
漁業の謙虚さは、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉜漁業の礼儀
漁業の礼儀は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉝漁業の節制
漁業の節制は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉞漁業の中庸
漁業の中庸は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㉟漁業の平和
漁業の平和は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊱漁業の寛容
漁業の寛容は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊲漁業の忍耐
漁業の忍耐は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊳漁業の謙虚
漁業の謙虚さは、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊴漁業の礼儀
漁業の礼儀は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊵漁業の節制
漁業の節制は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊶漁業の中庸
漁業の中庸は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊷漁業の平和
漁業の平和は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊸漁業の寛容
漁業の寛容は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊹漁業の忍耐
漁業の忍耐は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊺漁業の謙虚
漁業の謙虚さは、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊻漁業の礼儀
漁業の礼儀は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊼漁業の節制
漁業の節制は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊽漁業の中庸
漁業の中庸は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊾漁業の平和
漁業の平和は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

㊿漁業の寛容
漁業の寛容は、漁業の発展と持続可能性の実現です。

令和2年度 海洋教育年間指導計画 阪南市立下荘小学校

海洋教育のコンセプト		1 学期		2 学期		3 学期						
学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
海に親しむ	臨時休業中	臨時休業中	6月15日(月) 学校再開	7月2日(水)③④ 海遊び・生き物見つけ貝殻拾い 里海公園 自然海岸	生活科「季節による変化を見つけよう」 絵画「夏の海をイメージしよう」	生活科「季節による変化を見つけよう」	生活科「季節による変化を見つけよう」	生活科「季節による変化を見つけよう」				
海を知る	臨時休業中	臨時休業中		7月3日(金)③④ 海遊び・生き物見つけ貝殻拾い 里海公園	生活科 図画工作	生活科 図画工作		生活科				
海を守る	臨時休業中	臨時休業中		7月22日(木) 里海公園の生き物、大阪湾について 3年②	生活科	生活科	9月29日(金) 海遊び・生き物見つけ・地引網体験 (里海公園)	生活科「季節による変化を見つけよう」				
海を利用する	臨時休業中	臨時休業中		7月22日(木) 里海公園の生き物、大阪湾について 3年②	生活科	生活科	9月29日(金) 海遊び・生き物見つけ・地引網体験 (里海公園)	生活科				
海を知る	臨時休業中	臨時休業中		7月22日(木) 里海公園の生き物、大阪湾について 3年②	総合、社会	総合、社会	9月29日(金) 海遊び・生き物見つけ・地引網体験 (里海公園)	総合、社会、理科				
海を守る	臨時休業中	臨時休業中		6月24日(水)③ 海洋学習の目的、アマモトについての話 6月24日(水)⑤⑥ 花枝観察、生き物観察、地引網体験 (里海公園)	総合、理科、社会	総合、理科	9月14日(月) 種子選別② 社会「水産業」 理科「流れる水のはたらき」	総合、社会、理科				
海を利用する	臨時休業中	臨時休業中		6月 空気中の二酸化炭素のはたらき 7月7日(火)④ 海洋ゴミについての話 7月20日(月)⑤⑥ 海岸清掃(里海公園)	理科	理科	10月30日(金)⑥ 海洋清掃活動	理科				

海に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い、海に親しみ、海に遊んで関わりあうとする児童を育成する。

海の自然や資源、海をとりまく社会との深い関わりについて関心をもち、進んで調べようとする児童を育てる。

海の環境について調べる活動やその保全活動などの体験を通じて、海の環境保全に主体的にかかわろうとする児童を育成する。

水産物や資源、船舶を用いた人や物の輸送、また、海を通じた世界の人々との結びつきについて理解し、それらを積極的に利用することの大切さを理解できる児童を育成する。

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

生活科「季節による変化を見つけよう」

4年 単元名 海洋ごみを減らそう！

阪南市立下荘小学校

1. 単元目標

プラスチック製レジ袋が有料化になった理由や背景をきっかけに、廃棄物・資源制約、海洋プラスチックごみ問題、地球温暖化などの課題と向き合い、自分たちにできることを考え、具体的な方法を生活の中で実践しようとする。

2. 単元の評価規準

○知識・技能

調べ学習やゲストティーチャーの講話などから、海洋ごみの現状や問題点を理解することができる。また、調べたことを表や図を用いて分かりやすくまとめることができる。

○思考力、判断力、表現力等

海洋ごみに関する調べ学習の中で、必要な情報を集めたり、集めた情報を分かりやすく伝える方法を考えたりすることができる。

○学びに向かう力、人間性等

自分たちの生活が環境に与える影響を意識して、環境を守るために自分たちにできることを考えたり、生活の仕方を見直したりすることができる。

3. 単元の指導計画（全13時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点
1	1	○レジ袋が有料化になった理由と背景を知る。 ・新聞記事をもとに、理由を考える。 ・自分の考えを友だちと交流する。 ・振り返りをする。 (新たに分かったこと、不思議だと思ったこと、調べてみたいと思ったことなど)	○レジ袋有料化は、脱プラスチックに向けた取り組みの1つであることをおさえる。 ○プラスチックごみの問題点を考えさせることで、これからの学習についての見通しを持たせる。
	2～4	○校区の里海で、校外学習をする。 ・海岸の清掃活動をする。 ・漁港の方から、大阪湾について話を聞く。 ・地引き網体験や生き物探しをする。	○海岸の清掃活動を通して、プラスチックごみが多くあることに気づかせる。 ○地引き網体験や生き物探しを通して、生物の多様性に気づかせ、地域の里海に対する愛着を持たせる。

2	5・6	○本やインターネットを使い、海洋ごみやプラスチック問題について調べ学習をする。 ・キーワードをメモする。	○外部講師の方の講話を聞くことを伝え、調べ学習を進める中で聞きたいことなどを考えさせておく。
	7 (本時)	○外部講師の方の講話を聞く。 ・ごみが海に集まる理由 ・友ヶ島についての話 ・海洋ごみの現状 ・美しい海を守るために、自分たちにもできること	○メモを取りながら講話を聞き、次時からの学習に役立てることができるようにする。
3	8～12	○講話や調べ学習を通して、伝えたい・知って欲しいと思ったテーマを決め、テーマごとに調べたことなどをまとめる。	○聞き手を意識し、分かりやすい発表にするように声掛けを行う。
	13	○まとめたものを、学習発表会で発表する。	

4. 他教科等との関連

- 国語科「聞き取りメモのくふう(話し方や聞き方から伝わること)」「アップとルーズで伝える」
- 社会科「健康な暮らしを守る仕事」ごみの処理と活用、下水の処理と再利用
- 理科「季節と生き物」

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

海洋ごみや友ヶ島のごみ問題の現状を知り、海の環境を守るために自分たちにできることを考えることができる。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
15	○紙に自分の理想の町をかく。 ○自分がかいた町の中で、ごみが出ると予想する施設にクリップを置く。 ○グループで紙をつなぎ合わせ、全てのクリップを下流の町に集める。	○人がいる場所は、必ずごみが出るということに気付かせる。 ○ポイ捨てされたごみが、川に流されやがて海に集まり、海洋ごみになることに気付かせる。

20	<p>○友ヶ島のごみ問題についての話を聞く。</p> <p>○友ヶ島のごみ問題を改善するために、行われている取り組みについて知る。</p>	<p>○友ヶ島の海岸の写真から、ごみ問題が深刻であることをとらえさせる。</p> <p>○清掃活動がたくさん行われているにもかかわらず、ごみ問題が解決していないことから、一人一人の意識が大切であることに気付かせる。</p>
10	<p>○海の環境を守るために、自分たちにできることを考える。</p> <p>○講師の方へ質問をする。</p>	<p>○導入部での活動等から、何気なく捨てたごみが他人に迷惑をかけていることに気付かせる。</p>

6. 成果と課題

成果 「何気なく捨てていたごみが、他人に迷惑をかけている。」「ポイ捨てをしたそのごみは、陸地から川へ流れ込み、海を汚してしまうことが分かったから、これからはポイ捨てはしないようにしたいです。」「自分たちが使った生活排水が下水にいて、安全に処理されて、川から海へ流れていることが分かった。」といった感想から、他教科と関連づけながら、児童は海洋ごみの問題を自分事としてとらえることができている。また、学習を通して児童は「自分がポイ捨てをしない。」という意識だけでなく、「ごみを捨てる人に注意をする。」「自分から積極的に浜辺の清掃活動に参加する。」という意識も身についた。

課題 学習中は、積極的に学習に取り組む姿が見られたが、学習が終わると意識が低くなってしまいう児童も見られたので、継続的に海洋教育を行う必要がある。そのため、海洋ごみ問題やプラスチックごみ問題に関する新聞記事を紹介したり、それらに関する本を学級文庫に置いたりして啓発している。



5年 単元名 わたしたちの里海を守ろう

阪南市立下荘小学校

1. 単元目標

校区の里海や大阪湾について調べたり、様々な体験活動を行ったりして、海の自然や資源などは自分たちの生活と深いかかわりがあることを理解し、環境問題を自分事として捉えて課題解決に取り組むとともに、自らの生活や行動に活かすことができるようにする。

2. 単元の評価基準

○知識・技能

海の自然や資源などは自分たちの生活と深いかかわりがあることや、環境保全のために活動したり努力したりしている人々がいることを理解している。

○思考力、判断力、表現力等

身近な環境問題や環境保全活動に関心をもち、環境問題を自分の問題として捉え、必要な情報を集めたり選んだりして課題解決に取り組むとともに、調べたことを分かりやすくまとめたり、相手に関心をもってもらえるように工夫して伝えたりしている。

○学びに向かう力、人間性等

友達と協力して課題解決や実践に取り組むとともに、環境保全のために自分でできることに取り組むことを通して、自分と身近な里海とのかかわりを見直そうとしている。

3. 単元の指導計画（全16時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点
1	1～2	○外部講師の方から、海に関する話を聞く。 ・大阪湾について ・アマモについて ・校区の里海にいる生き物について	○大阪湾や校区の里海について知り、特色ある校区に興味を持たせる。 ○これからの学習についての見通しを持たせる。
2	3～5	○校区の里海で、校外学習をする。 ・地引き網体験や生き物探しをする。 ・見つけた生き物について知る。	○生き物と触れ合うことで、生物の多様性に気づかせ、地域の里海に愛着を持たせる。
3	6～8	○アマモを育てる。 ・種を選別する。 ・里海に種をまく。 ・苗床づくり、学校で育て、観察する。	○これから育てていくことを伝え、丁寧に作業に取り組ませる。

4	9～ 11	<p>○校外学習で「水産技術センター」に行き、大阪湾に生息する生き物について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産技術センターの役割についてビデオを視聴する。 ・大阪湾に生息する生き物を見たり、触ったりする。 	<p>○海を守るための活動をしていることに気づかせる。</p> <p>○実際に生き物と触れ合い、生物に愛着をもたせる。</p>
5	12～ 20	<p>○海洋ごみなどの環境問題について知り、もっと調べたいことや他の学年に知らせたいことなどを、本やインターネットで調べ、新聞にまとめる。</p>	<p>○表や図などを入れ、読み手が分かりやすいような紙面内容にするように声かけをする。</p>
6	21～ 25	<p>○ワカメの種付け、ワカメの収穫、ワカメの味噌汁づくりを行い、地元の海で立派なワカメが育てられることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のワカメと分かるようにプラ板を目印にする。 ・ワカメは、海中の窒素やリン、二酸化炭素を吸収してくれる。 ・収穫してすぐにお味噌汁を作り、海の恵みをいただく。 	<p>○数センチメートルのワカメの種付けを行うことで、ワカメの成長の早さに気づかせる。</p> <p>○地元の海の資源に気づき、愛着をもたせる。</p> <p>○命を頂いていることに感謝させる。</p>
7	25 (本時) ～ 30	<p>○学習したことを壁新聞（模造紙）にまとめる。（グループ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞で伝えたいテーマを決める ・役割を分担し、班で協力しながら行う。 ・できた新聞を学級で見合い、改善する。 	<p>○「学習したことを他校の児童に伝えるための新聞」という目的を意識させる。</p> <p>○学校の代表として書くことを伝え、丁寧に作業に取り組みせる。</p>
8	31～ 35	<p>○他校のポスターを見て、感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて知ったこと ・もっと詳しく知りたいと思ったこと ・良いなと思ったこと <p>○これから自分たちにできることについて考える。</p>	<p>○自分たちが学習したことと関連させて感想を書かせる。</p> <p>○「わたしたちの里海」を守るために自分ができることを具体的に考えさせる。</p>

4. 他教科等との関連

- 国語科「調べたことを正確に報告しよう」「グラフや表を用いて書こう」「新聞を読もう」
- 社会科「水産業」
- 理科「流れる水の働き」

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

今まで学習したことや調べたことを振り返り、相手意識を持って、工夫して紙面にまとめることができる。

【知識・技能】

校区にある里海でのフィールドワークやアマモを育てる活動などを通して、アマモの役割や環境に役立つことなどを理解し、その探究の技能を身につける。

【思考力・判断力・表現力】

里海にアマモを増やす活動や里海の良さを発信するために、写真や図や表などを用いてまとめ自分なりに考えたことや分かった表現し、紙面に表すことができる。

【学びに向かう力・人間性等】

里海を守るために、自分たちにできることから行動し、広めようとする。

(2) 本時の指導計画

時間	学 習 活 動	指導上の留意点
5	○めあてを確認する 「アマモを育てる活動を通し、海について学習したことを他校の人に伝えよう。」	○海洋学習を行っている3校とポスターを交流することを伝え、活動の見通しをもたせる。
10	○今年度海洋学習に取り組んだ活動について思い出す。 ・外部講師の話（里海・大阪湾について） ・里海での生き物探し、地引き網体験 ・アマモについて ・水産技術センターの見学 ・ワカメについて	○今までの活動写真を提示しながら、振り返らせる。 ○今まで活動した中で、印象深かった出来事を掘り下げ、興味をもたせる。
25	○新聞のテーマ・書く内容・分担について話し合う。 ・新聞のテーマ→新聞の名前の参考に ・書く内容→記事の見出しの参考に ・出来あがりのイメージを考える	○伝える相手を意識させて、書く内容を考えさせる。 ○次時の活動がスムーズにいくよう役割分担をさせておく。
5	○次時の活動について確認する。	○今までの学習ノートや参考になる本、カラーペンなど、使うものは自分たちで用意しておくように声かけをする。

6. 成果と課題

【成果】

- ・実際に海に行ったり、アマモやワカメの栽培に参加したりして、地元の海には水産資源が豊富にあることを知ることができた。
- ・環境問題について考えることで「地元の海をまもりたい」「自分にできることを実践していきたい」という思いをもつことができた。
- ・1年を通して活動してきたので、「ワカメの旬は冬」など、海の四季についても感じることもできた。
- ・地域に漁港があることから父や祖父が漁師という家庭もあり、いろいろな情報を学年の児童で共有することができた。道徳では、昔から続く海に関係のある行事について話し合うなど、他教科でも海について興味をもって取り組めた。

【課題】

- ・「生活排水を減らすために、節水する」など、海の環境を守るために自分たちができることを考えたが、実際に生活の中で行動できている児童が少ないように見受けられる。各クラスで、定期的に新聞記事や本などを利用して啓発し、内容を振り返る機会を設けていきたい。
- ・昨年度の5年生が海洋学習を行っているので、6年生に活動内容を紹介してもらったり、アドバイスしてもらったりなど、学年間を超えた活動を取り入れていきたい。

《海に親しむ》

1年 単元名 「海の生きものとなかよし」(3時間)

阪南市立舞小学校

1. 単元のねらい

- 生きものとふれ合ったり、世話をしたりする活動を通して、生きものへの関心と愛着を深め、それらの成長や命の尊さに気付くとともに、生きものを大切にすることができる。

2. 単元の指導計画

配時	学習活動	☆外部連携 ★指導上の留意点
1時間	<p style="text-align: center;">海の生きものに関心を持とう(態度)</p> <p>1. 海で生活している魚について話し合う。 ○知っている魚の名前、食べたことのある魚について友だちと話しあう。 ○給食や家で食べているちりめんじゃこについて話し合う。</p> <p>2. ちりめんじゃこに小さな生きものが交ざっていることを知る。</p>	★図鑑や、国語の「うみのかくれんぼ」を思い出す。
1時間 (本時2/4)	<p style="text-align: center;">チリメンモンスターをさがそう(気づき・習慣や技能の習得)</p> <p>1. チリメンモンスター探すことのねらいを知る。 ○ちりめんじゃこに交ざっているイカやタコなどの小さな生きものを探すことで海の環境に興味を持つ。</p> <p>2. いろいろな小さな生きものに親しむ。</p>	
2時間	<p style="text-align: center;">チリメンモンスターの観察カードを書こう(考え・表現)</p> <p>1. チリメンモンスター探しの活動を通して気付いたことを観察カードに書く</p>	

他教科等関連項目

図工「うみのなかのふしぎないきもの」

国語「うみのかくれんぼ」

道徳「ハムスターのあかちゃん」

3. 本時のねらい

- チリメンモンスターを種類別に選別することで、海の中にはたくさんの生きものがあることを知り、海に親しむ。

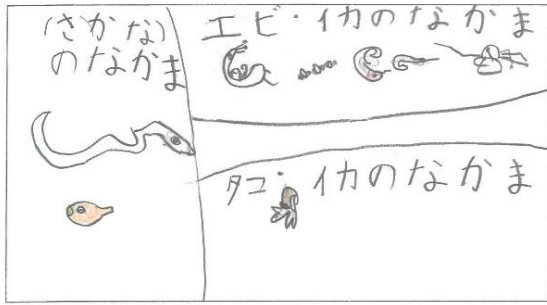
4. 本時の指導計画

配時	学習活動	☆外部連携 ★指導上の留意点
15分	<p>1. チリメンモンスターについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none">○チリメンジャコは、何の魚であるかを知る。○いろいろな小さな生きものが交ざっていることを知る。 <p>チリメンモンスターをさがそう（気づき・習慣や技能の習得）</p> <p>2. 活動の内容を知る。</p> <ul style="list-style-type: none">○チリメンジャコの中からいろいろな生きものを見つけ選別する。	<p>☆外部講師から、チリメンモンスターについて話を聞く。</p> <p>★写真をよく見て形や色の違いに気付くように声をかける。</p>
20分	<p>1. いろいろな小さな海の生き物に親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none">○チリメンモンスターを小魚、エビ・カニ、タコイカのグループにわけ。《カード》○ボンドで貼る	
10分	<p>1. 本時の学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none">○海の生きものについて 海には、小さな魚の仲間、エビや貝、タコやイカなどの生きものがたくさんいることに気付く。	

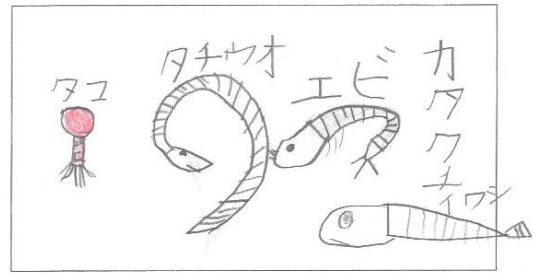
5. 成果と課題

- ・チリメンモンスターのことを知らない子が多くおり、実際にふれることで興味を持って取り組むことができた。
- ・海の生き物がたくさんいることを実感することができた。
- ・チリメンモンスターの仲間分けをすることで、自然に海の生き物のことをくわしく学ぶことができた。また、海の生き物の体のつくりを自然と学ぶことができた。

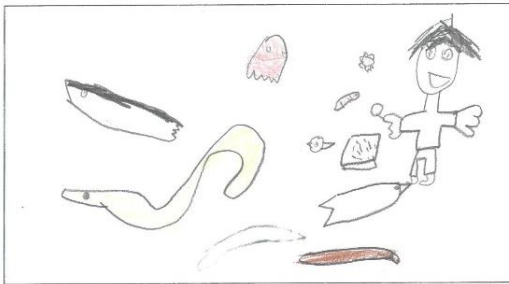
6. 活動の様子、感想



きょうチリメンモンスターをして、
たのしかったしエビも
カニもタコもさかなのな
かまも見つけられてま
たやりたいなとおも
いました。



チリメンモンスターで
タコが1匹、タチウオ
オガ2匹、エビも2匹
カタクチイワシも
1匹、きみつかつられ
かったです。



チリメンで、なかまチリメンもツ
ついでに見つけました。ワ
ちちなかかったです。ロープ
みたいで。くちもロープ
みたいで。



《海に親しむ》

2年 単元名 「海辺の自然をたのしもう」(3時間)

阪南市立舞小学校

1. 単元のねらい

○海の生き物の名前や、海の乗り物に関心を持ち、進んで調べることができる。

○海辺での遊びや生き物などとのふれあいを通して、海の自然に親しみ、進んで海に関わることができる。

2. 単元の指導計画

配時	学習活動	☆外部連携 *指導上の留意点
1時間	<div data-bbox="328 927 1098 981" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">海の漂着物について知り、関心を持つ。(態度)</div> <ol style="list-style-type: none">1. 昨年のチリメンモンスターの活動を思い出し、海の生き物について話し合う。2. ビーチコーミングの活動について知る。3. 海岸に流れ着いた貝殻や石、流木や海藻などの漂流物について考える。	
2時間	<div data-bbox="328 1384 1098 1496" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">ビーチコーミングと海の生き物や山と海のつながりについて学習する。〈ゲストティーチャー〉(気づき・習慣や技能の習得)</div> <ol style="list-style-type: none">1. ビーチコーミングについて話を聞く。<ul style="list-style-type: none">・活動についての注意・海の漂流物2. 海に生き物について<ul style="list-style-type: none">・海の魚や貝について知る。3. 山と海のつながりについて学習する。<ul style="list-style-type: none">・山の生き物と海の生き物・雨の役割4. 自分だけの貝殻作りをする。<ul style="list-style-type: none">・貝殻に絵や模様を描き、色を塗る。	☆岸和田自然史博物館、海遊館の職員の方、外部講師の方から海の生き物についての話を聞く。ビーチコーミングの説明を聞く。

<p>2時間 (本時 4.5/8)</p>	<p>ビーチコーミングで海を感じよう。(気づき・習慣や技能の習得)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 海辺のいろいろな生き物や漂流物に気づく。 2. ビーチコーミングを通して、海と山や川のつながりに気づく。 3. きれいな貝殻や石、シーグラスなどを見つける。 	
<p>1時間</p>	<p>見たこと、かんじたことをワークシートに書こう。(考え・表現)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ビーチコーミングの活動を通して見たこと、感じたことを観察カードに書く 	
<p>2時間</p>	<p>「せかいで一つだけのわたしのかがみ」を作ろう。 (考え・表現)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 貝殻や石、シーグラスなどをきれいに洗い、乾かしておく。 2. かがみの上に貝殻、石、シーグラスを置き、ボンドをつけて固定する。 	
<p>他教科等関連項目</p> <p>図工「ふしぎなタマゴ」「せかいで一つだけのわたしのかがみ」「スイミー」</p> <p>国語「きょうのできごと」「スイミー」「見たこと、かんじたこと」</p> <p>道徳「まいごになった赤ちゃんくじら」「たんじょう日」</p> <p>生活「みんな生きている」</p> <p>音楽「ぷっかりくじら」「いるかはざんぶらこ」</p>		

3. 本時のねらい

- 海岸に落ちている漂着ごみを拾い集め、観察しながら散策するビーチコーミングの活動を通して、海と森や川とのつながりや海辺に生息する生きものへの興味・関心をもつことができる。

4. 本時の指導計画

配時	学習活動	☆外部連携 *指導上の留意点
5分	<p>1. 活動の内容を知る。</p> <p>○ビーチコーミングの注意を聞く。</p>	<p>☆外部講師から、ビーチコーミングについて話を聞く。</p> <p>※体調管理に十分気をつけ、水分補給させる。</p>
30分	<p>ビーチコーミングで海を感じよう。</p> <p>1. 海辺のいろいろな生き物や漂流物に気づく。</p> <p>2. ビーチコーミングを通して、海と山や川のつながりに気づく。</p> <p>○きれいな貝殻や石、シーグラスなどを見つけ、ビニール袋に入れる。</p>	<p>※貝殻や石、シーグラス以外の漂着ごみや漂流物についても気づかせる。</p>
10分	<p>1. 本時の学習をふりかえる。</p> <p>○ビーチコーミングの活動をふりかえり、海辺の生き物だけでなく、海の環境についても興味を持つ。</p>	<p>※昨年のチリメンモンスターから海辺での触れ合いを通して、海の自然に親しみ、3年生、4年生と続いていく海洋教育について興味を持たせる。</p>

5. 成果と課題

- ・雨で一度延期になったが、いろいろなお話を聞かせていただけたのがよかった。海について興味がわき、ビーチコーミングがさらに楽しみになった。
- ・ビーチコーミング当日は暑かった。もう少し早い時期にできたら。
- ・変わった形の石やきれいな模様の貝殻を見つけ、夢中になって取り組んでいた。同時に、海にたくさんのゴミが落ちていることに気づくことができた。
- ・自分で拾ったものを生かして、楽しみながら鏡作りをすることができた。

6. こどもの感想、様子



きょうは、しよとりにいきました。かいがらやいしをみつけました。ゴブもありません。もっとゴミがすくなくなったらいいとおもいました。



今日の3じかんめと4じかんめにビーチコーミングに行きました。貝をさかしてみるとき、らざらてました。シーグラスをいってみると海のおいがしました。またシーグラスや貝をひろいに行きたいです。



今日ビーチコーミングに行きました。くるくるの貝やかきみたい貝もありました。ばんひっくりしたのは、あなのあいた貝です。なぜあんなのになったかが知りたいです。せいぞろいマスクがぐさかったけど、いれたのしかたです。



《海を知る》

3年 単元名 「海藻ってなんだろう？」(3時間)

阪南市立舞小学校

1. 単元のねらい

- 海藻に興味を持つ。
- 海藻のはたらきを知り、海の環境を守ろうとする意識を高める。
- 海藻が植物のもとになっていることを知る。

2. 単元の指導計画

時	学習活動	☆外部連携 *指導上の留意点
1時間	<p>海藻について知ろう (課題設定・情報収集の力)</p> <ol style="list-style-type: none">1. 給食の海藻サラダを思い出す。 何色の海藻が入っていたか。2. 海藻の種類やはたらきについて知る。 ○海藻は3種類 (緑藻、褐藻、紅藻) ○はたらき<ul style="list-style-type: none">・海にすむ魚などの生き物の すみか、えさ、卵をうむ場所、赤ちゃんが育つ場所になる。・海の水をきれいにする。・生き物にひつような酸素(さんそ)をつくる。・栄養があがる (人間の体にいい)	<p>*ワカメ、コンブ、トサカノリ、フノリなどの色 を思い出す。</p> <p>*パワーポイント「海藻 って?」を見る。</p>
2時間 (本 時)	<p>海藻おしばを作ろう (表現・発信の力)</p> <ol style="list-style-type: none">1. 海藻おしばの作り方を知る。2. 海藻おしばを作る。 色んな色を組み合わせ、海藻の形を生かして思 い思いの作品を作る。3. 活動をふり返る。	<p>*海藻の色や形を上手く 組み合わせるよう指導 する。</p>

<p>3時間</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">海藻おしばを鑑賞しよう（表現・発信の力）</p> <p>1. 友だちの作品を鑑賞する。</p> <p style="padding-left: 40px;">自分の作品で工夫したところを発表する。</p> <p style="padding-left: 40px;">友だちの作品でよいところを発表する。</p> <p>2. ふり返りをする。</p>	<p>*海藻の色や形をうまく使っているところに注目させる。</p>
<p>他教科等関連項目</p> <p>理科「植物の育ちとつくり」（6月）</p> <p style="padding-left: 20px;">植物の体は根、茎及び葉からできていることを理解する。</p> <p>理科「植物の一生」（10月）</p> <p style="padding-left: 20px;">種から発芽し、子葉が出て、葉が茂り、花が咲き、実ができた後に枯死するという植物の成長の順序や、体のつくりについての考えをもつことができる。</p>		

3. 本時のねらい

海藻にふれ、親しみ興味をもつ。

海藻を使って表したいものを表現する。

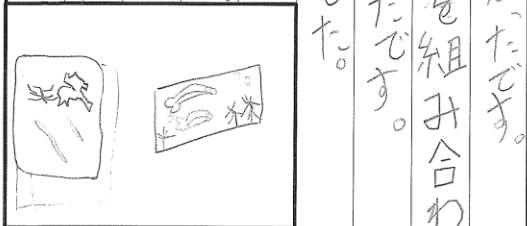
4. 本時の指導計画


配時	学習活動	☆外部連携 *指導上の留意点
5分	<p>1. 海藻おしばの作り方について話を聞く。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">海藻おしばを作ろう（表現・発信の力）</p> <p>○海藻おしばの作り方を知る。</p>	
35分	<p>2. 海藻を組み合わせて海藻おしばを作る。</p> <p>○表したいものを考える。</p> <p>○海藻の色や形を生かして組み合わせ表現する。</p>	<p>*海藻の色や形を上手く組み合わせるよう指導する。</p>
5分	<p>3. 活動をふり返る。</p> <p>○活動をふり返り、海藻について感じたことや活動についての感想を書く。</p>	<p>*これからも海を知る活動を継続していくことを確認する。</p>

5. 成果と課題

- ・海藻は色々な色があることにびっくりして、興味を持ちながら活動することができた。
- ・海藻おしばを作りながら、海藻の特徴や種類を自然に学ぶことができた。
- ・子どもたちの振り返りを見ていると海藻で模様をつくったり、ちぎり絵をしたりしただけになってしまった子もいた。もう少し海藻について詳しく知る時間が必要であると感じた。
- ・活動に合わせて、給食のメニューに海藻サラダをお願いすることができるので、来年度の年間計画が決まったら、時期を合わせるようにしたい。

6. 児童の感想、様子

<p>今日、かいそうおしばをやった。楽しかったです。なぜなら、いろいろななかかいそうを組み合わせておしばを作るのが楽しかったです。わたしはイルカを作りました。かいそうにはヌメヌメしているものや長いもの、つながつているものもありました。いろいろななかかいそうのものがあつておもしろかったです。</p>	
---	---

<p>わたしは、ハートのリースをつくってみました。ハートのかたちをつくるのがすごくむずかしかったです。かいそうをストローであなをあけるのがたのしかったです。かいそうをさわってみて、やわらかい、かじそうやぬるぬるのかいそうがありました。かいそうの形は、いろいろあるんだなとおもいました。きょうは、とてもたのしかったです。かいそうのことをいっしょにしてよかったです。おもしろかったです。</p>	
---	--



≪海に親しむ・海を知る・海を守る≫
 4年 単元名「アマモと海の生き物にふれよう」(6時間)
 阪南市立舞小学校

1. 単元のねらい

- 6年生が植えたアマモについて知る。
- アマモ場に住む生き物の多様性に気づく。

2. 単元の指導計画

配時	学習活動	☆外部連携 ★指導上の留意点
1時間	大阪湾の生き物について考えよう(課題設定の力)	
	1. アマモの種子採集と生き物観察について、活動内容を 知り、目的を確認する。 2. 大阪湾に生息する生き物の種類について、数を予想 する。 3. 海で活動する際の留意点について確認する。	
2時間 (本時 1/2~2/ 2)	アマモの種子と生き物を採集しよう(社会参画の力)	
	1. アマモの種子と、その採集方法について知る。 2. アマモの種子を採集する。 3. アマモ場に入り、生き物を採集する。 4. 採集した生き物を観察する。 5. 海の生き物の分類方法について知る。	☆外部講師から、アマ モの種子と、その採 集方法について説 明して頂く。 ★安全確保のため、 活動区域を区切る。 ★テトラポッドや岩場 等、危険な箇所に 教職員が立ち、見 守る。

	6. 採集した生き物の種類を知る。	
	5年生にアマモの種子を引き継ごう(表現・発信の力)	
2時間	1. アマモの種子選別の方法について知る。 2. アマモの種子を選別する。 3. アマモ場と海の生き物の関係について知る。 4. 5年生にアマモの種子を引き継ぐ準備をする。	☆外部講師から、アマモの種子の選別方法、アマモ場と海の生き物の関係について教えて頂く。
他教科等関連項目 教科名 他教科等関連項目 社会科:下水のゆくえ(5月) 社会科:大阪府の郷土(1月) 理科:水のすがたとゆくえ(3月)		

3. 本時のねらい

- アマモについて知る。
- アマモ場に住む生き物の多様性に気づく。

4. 本時の指導計画

配時	学習活動	☆外部連携 ★指導上の留意点
10分	1. アマモの種子と、その採集方法について知る。 アマモの種子と生き物を採集しよう(社会参画の力)	★海で活動する際の注意点を確認する。
40分	2. アマモの種子を採集する。 3. アマモ場に入り、生き物を採集する。	★活動区域を区切り、児童に周知する。 ★教職員で分担し、危険な箇所周辺で活動を見守る。
15分	4. 採集した生き物を観察する。	☆外部講師から、それぞれの生き物について解説して頂く。

10分	5. 海の生き物の分類方法について知る。	
15分	6. 採集した生き物の種類を知る。	★生物の種類を知ること とで、アマモ場に多 様な生物がいること に気づかせる。

5. 成果と課題

- ・生き物が思ったよりたくさんの種類が採れてとても喜んでいました。アマモ場にはたくさんの生き物がいるということを実感し、阪南市の海に興味を持つことができた。
- ・海のごみにも気が付き、きれいな海にすることの大切さを考えることができた。
- ・アマモ場で採取した生き物を学校で飼育することで、西鳥取の海やアマモについて全校児童に広めることができた。来年度は子どもたち自身で飼育をしていけるよう、体制を整えていきたい。

6. 児童の感想・様子

- ・海にはたくさんの生き物がいた。普段食べたりしている魚の赤ちゃんがいたので、大きく育つといいなと思った。
- ・魚を捕まえることができてうれしかった。ヨウジウオやたつのおとしごを初めて見た。また、海に行ったときに観察したい。
- ・アマモがたくさんある海は、きれいな海だということがわかった。きれいな海づくりをこれからもしていきたいと思う。

<<海に親しむ>>
 4年 単元名 「海苔すき体験をしよう」(4時間)
 阪南市立舞小学校

1. 単元のねらい

- ・大阪湾の海苔の養殖について学ぶ。
- ・海苔すきを体験し、食べることで海を身近に感じ、すばらしさを知る。

2. 単元の指導計画

配時	学習活動	☆外部連携 ★指導上の留意点
2時間	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">海苔の養殖について知ろう(課題設定の力)</div> 1. 昨年とりくんだ海藻おしばの様子を見る。 <ul style="list-style-type: none"> ・3種類の海藻があること(緑藻・紅藻・褐藻) ・海藻の色々な色をつかって絵はがきを作ったこと ・海藻のはたらきを知ったこと 2. 大阪湾の海苔の養殖について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸内海や九州などで多く養殖されている。 ・大阪湾で養殖されているのは西鳥取の海だけ 3. 海苔すきの方法について知る。 4. 海苔すきの枠を作る。	★昨年度行った「海藻おしば」の様子をスライドで見せる ★発泡スチロールと電熱線の準備 ★火傷をしないように気をつける
2時間 (本時 3・4/4)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">海苔すき体験をしよう(課題追求の力)</div> 1. 採れたての海苔を観察する。 2. 海苔すき体験をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・海苔すきの説明を聞く。 ・自分の作った枠に海苔を流し込む。 ・できた海苔をかわかす。 	☆西鳥取漁協

<p>時間</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <p>海苔すき体験で知ったことを3年生に伝えよう (表現・発信の力)</p> </div> <p>1. 海苔すき体験をしたことをふりかえる。 ・西鳥取の海の様子(海辺のごみ) ・漁協の人の思い ・自然のよさ ・郷土の産業</p> <p>2. のりすき新聞を作る。 ・体験、活動したことや漁協の人の思いなどを 3年生へ伝える。</p> <p>3. 海苔すき体験でつくった海苔を作る。</p>	<p>★海苔すき体験時の写真</p>
<p>他教科等関連項目</p> <p>社会科:下水のゆくえ(5月)</p> <p>社会科:大阪府の郷土(1月)</p> <p>理科:水のすがたとゆくえ(3月)</p>		

3. 本時のねらい

海苔すき体験を通して大阪湾の海苔の養殖について知り、海を身近に感じる。

4. 本時の指導計画

配時	学習活動	☆外部連携 ★指導上の留意点
5分	<p>1. 採れたての海苔を観察する。 ○海苔すきの枠に入れる前の様子を知る。</p>	<p>☆ 西鳥取漁協 ★海苔すきの手順を しっかり聴く。</p>
40分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <p>海苔すき体験をしよう(課題設定の力)</p> </div> <p>2. 海苔すき体験をする。 ○海苔すきの方法を知る。 ○海苔すきを体験する。</p>	<p>★海苔は、枠の中に 薄く流すようにする。 ★海苔の乾燥方法を 観る。</p>

	○すいた海苔を干す。	
10分	<p>3. 活動をふりかえる。</p> <p>○活動をふり返り、海藻について感じたことや活動についての感想を発表する。</p> <p>○乾燥させた海苔を試食した感想を発表する。</p>	★体験を通して考えたことを3年生に伝える新聞づくりをすることを知らせる。

※海苔すき体験は、本校家庭科室で実施したため、のりの製造過程及び海の観察は実施しなかった。

4. 成果と課題

- ・事前学習では、大阪湾で唯一作られているという阪南市の海苔を学習すると児童は非常に驚いていた。海苔づくりに非常に意欲的で、手順などもよく理解していた。
- ・実際に海苔を作っている方の話を聞くことで、普段学校から見えている海のすばらしさを実感することができた。
- ・課題としては、3つのコースを準備していただいていたのでスムーズに活動ができたが、待ち時間にワークシートなどを準備していたら良かったと感じた。

《海に親しむ・海を守る》

5年 単元名 「アマモの種を西鳥取の海に植えよう・自分たちで育てよう」(4時間)

阪南市立舞小学校

1. 単元のねらい

- 身近な西鳥取の海へ実際に行き、これから関わる海への関心を高める。
- アマモを植える活動を通して、海洋問題に取り組む主体性を育む。

2. 単元の指導計画

配時	学習活動	☆外部連携 ★指導上の留意点
1時間	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">アマモについて知ろう(課題設定の力)</div> <p>1. 6年生が育成に取り組んできた「アマモ」について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アマモの役割…海をきれいにする。 生き物のすみかになる。 ○アマモを育てる理由…大阪湾をきれいにする。 魚を増やしたい。 <p>2. これまでの6年生の活動について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○6年生が5年時に行った取り組みを知る。 ○G20での発表の様子を見る。 ○GIJでの発表の様子を見る。 	<p>★映像の視聴を通して、海洋問題に対する取り組みが世界的に行われていることを知る。</p>
2時間 (本時2・3/4)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">アマモの種を西鳥取の海に植えよう(課題追求の力)</div> <p>1. アマモの植え方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ポット(学校で育てる用)と紙ねんど(海に植える用)を準備する。 <p>2. アマモを植える。</p> <p>3. 海と海岸の様子を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○海の中や海岸の様子を観察する。 	<p>☆外部講師からアマモの植え方を聞く。</p> <p>★ごみがあることに気づき、ごみ拾いをし</p>

	4. 今日の活動をふりかえる。	てもいいように袋を用意する。
1時間	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 今後の取り組みについて考えよう (表現・発信の力、社会参画の力) </div> <ol style="list-style-type: none"> 1. アマモの成長した様子を観察する。 2. 気づいたことを交流する。 3. 今後自分たちにできることを考え、交流する。 	
他教科等関連項目 社会科「水産業のさかんな地域」(9月) 総合「環境問題について調べよう」(10月～11月) <ul style="list-style-type: none"> ・現在、課題となっている環境問題について知る。 ・自分の選択した環境問題について調べ、自分たちにできることを考える。 ・調べたことをまとめ、発表する。 		

3. 本時のねらい

- アマモを植える活動を通して、自分たちも保全活動に取り組むという意識をもつ。
- 身近な海の実情を知り、課題意識をもつ。

4. 本時の指導計画

配時	学習活動	☆外部連携 ★指導上の留意点
15分	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外部講師からアマモについての説明を聞く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> アマモの種を西鳥取の海に植えよう (課題追求の力) </div> <ol style="list-style-type: none"> 2. アマモの植え方の説明を聞く。 	☆外部講師からアマモの植え方を聞く。
50分	<ol style="list-style-type: none"> 3. アマモを植える。 	★植える際にアマモの種をよく観察するよう声かけをする。

20分	4. 海岸の様子を観察する。	★ごみがあることに気づき、ごみ拾いをしてもらいように袋を用意する。
5分	5. 今日の活動をふりかえる。	

5. 成果と課題

- ・体験活動の前に、アマモの役割や育てる意味を事前に学習した。アマモについては知っていたが、海の環境との関りについても知り、視野を広げて体験に臨むことができた。
- ・植えでは、外部講師の話をしっかり聞き、楽しみながら作業ができた。ただ種を植えるだけでなく、その海が魚の住みやすい海になってほしいと願いながら、種を入れた紙粘土を海へ投げることができた。また学校で、そのアマモを水槽に入れる時には、自主的に手伝おうとする児童も多く、関心の高さが見られた。
- ・ごみがたくさんあった海岸を見て「ごみ拾いをしたい」という意見もあったので、行事として終わるのではなく、今後の活動にもその思いを生かしていきたい。

《海を知る・海を利用する》

5年 単元名 「自分たちでワカメを育てて収穫しよう」(7時間)

阪南市立舞小学校

1. 単元のねらい

- 海藻と人とのかかわりを知り、海の資源について考える。
- ワカメを種付けし収穫する活動を通して、海の環境問題について考える。
- ワカメという水産資源の収穫を通して、海の重要性を感じる。

2. 単元の指導計画

配時	学習活動	☆外部連携 ★指導上の留意点
1時間	<p style="text-align: center;">海藻と海草について知ろう(課題設定の力)</p> <p>1. 海藻と海草について、その違いや種類、生態を知る。</p> <p>2. 海藻の海での役割や人とのかかわりについて知る。</p> <p>3. ワカメの種付けについて知る。</p> <p>4. 西鳥取の海について考える。 ○前回の写真などを見ながら、自分たちにできることを考える。</p>	<p>★前回のアマモ種植えの時の海岸の様子を想起させるようにする。</p>
2時間 (本時2・3/7)	<p style="text-align: center;">ワカメの種付けをしよう(社会参画の力)</p> <p>1. ワカメの種付けの方法を知る。 ○太いロープにワカメの種のついた糸をまきつける。</p> <p>2. ワカメの種をつける。</p> <p>3. 海と海岸の様子を知る。 ○前回とは違う海岸へ行き、様子を観察する。 ○海岸にゴミがあることに気づく。</p> <p>4. 今日の活動をふりかえる。</p>	<p>☆外部講師と西鳥取漁協の方からワカメの種の付け方を聞く。</p> <p>★ごみがあることに気づき、ごみ拾いをしてもいいように袋を用意する。</p>

<p>1時間</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>ワカメの利用法とワカメ漁の現状を知ろう (課題設定の力)</p> </div> <p>1. ワカメの利用法を想起する。 ○食べ方(ゆでる・みそ汁などに入れる、酢の物、など)</p> <p>2. ワカメのよい点を知る。 ○栄養素などの面からも考える。</p> <p>3. ワカメの不漁などのニュースを知り、疑問をもつ。 ○2019年の不漁問題についてのニュース映像を見る。 ○なぜワカメが採りにくくなることがあるのか、考える。</p> <p>4. ワカメ収穫についての流れを知る。</p>	<p>★できるだけ子どもたちから挙げさせる。</p> <p>★よい点のたくさんあるワカメの不漁に対する危機感がもてるようにする。</p>
<p>2時間</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>ワカメの収穫をしよう(社会参画の力)</p> </div> <p>1. ワカメの成育の流れや収穫の方法を知る。</p> <p>2. ワカメの収穫を行う。</p> <p>3. 海岸のごみ拾いを行う。</p> <p>4. 今日の活動をふりかえる。</p>	<p>☆外部講師と西鳥取漁協の方からワカメの収穫方法を聞く。</p> <p>★ワカメの様子についてよく観察させる。</p> <p>★ごみ拾いをしてもらいように袋を用意する。</p>
<p>1時間</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>ワカメを食べてみよう(表現・発信の力)</p> </div> <p>1. ワカメのゆで方について知る。</p> <p>2. ワカメをゆでて色の変化を確かめる。 ○グループに分かれて一人一回は自分でゆでる。</p> <p>3. ワカメを食べる。</p> <p>4. ワカメ収穫や試食を通して感じたこと、考えたことをまとめる。</p>	<p>★調理上の注意点を おさえておく。</p> <p>★全員が体験できるように留意する。</p> <p>★アレルギーに注意 する。</p> <p>★これまでの学習を</p>

	○種付け・事前学習のこともふくめて考えを書く。 5. 感想・考えを発表・交流する。	想起できるように声かけをする。
--	--	-----------------

他教科等関連項目 家庭科「おいしい楽しい調理の力(調理実習・ゆでる)」(11月) 「食べて元気!ご飯とみそ汁(栄養素のはたらき)」(2月) 社会科「水産業のさかんな地域」(9月) 総合「環境問題について考えよう」(10月～11月)		
--	--	--

3. 本時のねらい

○ワカメという水産資源の収穫を通して、海の重要性を感じる。

4. 本時の指導計画

配時	学習活動	☆外部連携 ★指導上の留意点
10分	1. 外部講師からワカメの成育の流れについて話を聞く。 2. 外部講師からワカメの収穫方法の説明を聞く。 ワカメの収穫をしよう(社会参画の力)	☆外部講師からワカメの成育の流れと収穫方法を聞く。
40分	3. ワカメを観察する。 4. ワカメの収穫をする。	★ワカメの様子についてよく観察させる。 ★観察して気づいたことを共有できるように声かけをする。 ☆西鳥取漁協のみなさんにも切り方を教えて頂く。 ★切る際にワカメの様子を見るよう声かけをする。
10分	5. 外部講師からワカメの利用法や保存について説明を聞く。	
30分	6. 海岸のごみ拾いを行う。	★ごみ拾いをしてもらいように袋を用意する。 ★前回行ったごみの仕分けの学習を想起し、ごみの種類に注

		目するよう声かけをする。
--	--	--------------

5. 成果と課題

- ・ワカメの種付けから収穫までを体験できたので、海の恵みを実感できた活動となった。海の中で育つ海藻の様子について、前回のアマモの種植えを思い出させながら学習することで、ワカメの生長だけでなく海の環境全体について考えさせることができた。
- ・自分たちで育てたワカメを収穫するときには、とても楽しみな様子で、ワカメを持ち上げた時に見たその大きさに驚いていた。ヌメヌメしたワカメに苦戦したり、以前校長先生から絵本の読み聞かせて知った「ワレカラ」を一生懸命探したり、普段体験できない自然に触れるいい機会となった。
- ・自分たちが植えたワカメは、「2日前の雨で山の栄養が海に流れてきたのできれいな色に育っている。」と教えていただいた。この話をもとに、来年度の「山・川・海の循環」の学習につなげていきたい。
- ・後日、自学でワカメの調理の仕方や地球温暖化、ごみ問題について調べた児童がいた。体験活動を通して環境について自分事として考え、行動できるように引き続き海洋教育に取り組んでいきたい。

6. 児童の感想、様子

ごみひろいをしたときに、ペットボトル
 やかんのゴミなどが落ちていたから、そ
 れで海がきたなくなっているのかと
 思ったけど、他のプラスチックごみもあ
 って、それでも海がきたなくなっている
 とわかったから、たまにごみをひろ、た
 りしたらいいと思った。ごみひろいをし
 て、かいそうを海にうえたら、海はき
 れいになると思った、海をきれいに
 するためには、いろいろなことをして、小さい
 魚やエビなどがちゃんとくらせるよう
 なればいいと思った。
 かいそうは海をきれいにす
 るために必要な物だと知った。



≪海に親しむ・海を知る・海を守る≫
 6年 単元名「アマモと海の生き物にふれよう」(5時間)
 阪南市立舞小学校

- 活動を引き継ぐために、アマモの種子を採り、選別を行う。
- アマモ場に住む生き物の多様性に気づき、これまでの活動の重要性を理解する。

2. 単元の指導計画

配時	学習活動	☆外部連携 ★指導上の留意点
1時間	大阪湾の生き物について考えよう（課題設定の力） 1. アマモの種子採集と生き物観察について、活動内容を知り、目的を確認する。 2. 大阪湾に生息する生き物の種類について、数を予想する。 3. 海で活動する際の留意点について確認する。	
2時間 (本時 1/2～2/2)	アマモの種子と生き物を採集しよう（社会参画の力） 1. アマモの種子と、その採集方法について知る。 2. アマモの種子を採集する。 3. アマモ場に入り、生き物を採集する。 4. 採集した生き物を観察する。 5. 海の生き物の分類方法について知る。 6. 採集した生き物の種類を知る。	☆外部講師から、アマモの種子と、その採集方法について説明して頂く。 ★安全確保のため、活動区域を区切る。 ★テトラポッドや岩場等、危険な箇所に教職員が立ち、見守る。

5年生にアマモの種子を引き継ごう（表現・発信の力）		
2時間	1. アマモの種子選別の方法について知る。 2. アマモの種子を選別する。 3. アマモ場と海の生き物の関係について知る。 4. 5年生にアマモの種子を引き継ぐ準備をする。	☆外部講師から、アマモの種子の選別方法、アマモ場と海の生き物の関係について教えて頂く。
他教科等関連項目 教科名 理科「生物どうしのつながり」（6月） 「自然とともに生きる」（3月） 社会「国際連合と日本の役割」（3月）		

3. 本時のねらい

- 活動を引き継ぐために、アマモの種子を採る。
- アマモ場に住む生き物の多様性に気づく。

4. 本時の指導計画

配時	学習活動	☆外部連携 ★指導上の留意点
10分	1. アマモの種子と、その採集方法について知る。 <div style="text-align: center;">アマモの種子と生き物を採集しよう（社会参画の力）</div>	★海で活動する際の注意点を確認する。
40分	2. アマモの種子を採集する。 3. アマモ場に入り、生き物を採集する。	★活動区域を区切り、児童に周知する。 ★教職員で分担し、危険な箇所周辺で活動を見守る。
15分	4. 採集した生き物を観察する。	☆外部講師から、それぞれの生き物について解説して頂く。
10分	5. 海の生き物の分類方法について知る。	
15分	6. 採集した生き物の種類を知る。	★生物の種類を知ること、アマモ場に多様な生物がいることに気づかせる。

5. 成果と課題

子どもたちはたくさんの種類の生き物を採取し、その多様性に気づいた様子であった。知らない生き物も多く、興味をもち、外部講師の皆さんに「これなんて名前?」「なんでこんな形なの?」と、質問をしていた。

アマモの種子選別では、アマモ場の大切さを改めて確認したことで、自分たちの活動の重要性や受け継いでいくことの大切さに気づいたようなつぶやきもあった。

6. 児童の様子・感想

☆今日の活動を通して学んだこと・考えたこと・感じたことを書こう。

海には色々な魚がいるとわかった。海の生き物でいっぱい。ゴミもいっぱいあるとわかった。また、海は生き物でいっぱい。わからないものをいっしょに調べてもらいたい。アマモはあまりよかったです。成長していたからおもしろい。アマモは海の中では大切に育てられていることがわかった。今年で最後だからしっかりアマモの大切さを海の中の生き物についてもっと知りたいと思った。



☆今日の活動を通して学んだこと・考えたこと・感じたことを書こう。

生物をとろうとしたけど、一匹もとれなくて、ごんねんだった。前にもとったけど、まだ知らない名前の魚がいっぱいあって、おもしろかった。また、いっしょに魚をたくさんとりたいと思った。

海には、ゴミがいっぱいあった。また、ゴミひろいに行きたい。海の水は、つめたいう所と、ぬるいう所があった。やっぱり、魚を素手で魚をさわるのは、無理だったけど、素手でさわれるようになりたい。タイの赤ちゃんは、とてもかわいかった。

《海を知る・海を利用する・海を守る》
6年 単元名「山・川・海の学習」
阪南市立舞小学校

1. 単元のねらい

- 水は循環し、山の栄養を海に運ぶことがわかる
- 豊かな海を守るために自分ができることを考え、他者にも発信できる
- 海藻から肥料を作り、校内の栽培に利用する

2. 単元の指導計画

配時	学習活動	☆外部連携 ★指導上の留意点
1時間 (本時 1/ 1)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 海の栄養はどこから来ているのだろうか(課題設定の力) </div> 1. 昨年度の「ワカメの学習」を思い出す。 ・初め2cm くらいだったワカメが体より大きくなっていた ・ワカメは海の栄養を吸って大きくなる ・栄養はワカメが成長するためにはたくさんの栄養が必要 ・どこから栄養が来ているのかな 2. 海の栄養がどこから来ているのかを考える ・海の中には自然に栄養ができる ・誰かが栄養をまいている ・魚のフンや死んだ生き物が栄養になる 3. 外部講師をお招きして教えてもらうことを伝える	☆外部講師の話を読み出させる
2時間	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 栄養はどうやって海に来るのか考えよう(課題追求の力) </div> 1. 外部講師と運動場で山や海の観察をする ・大きな木がある ・細い木もある ・木の葉が地面に落ちている ・海は色の違うところあがる	☆事前に講師と教員で下見をしておく ★雨上がりなど天候の違いによって海の色が違うことを知らせる ★高い所から海(下)に向かって流れ込んでいくことを知る

	<p>2. 水の循環について話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蒸発した海の水が雨となって山に降る ・雨は、山にある栄養を海まで流していく ・水の循環は太陽のエネルギーで起こる <p>3. 本時のふり返しをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(子どもの感想を打ち込んでください) ・栄養が流れるのなら、汚いものも流れていくのだろうか 	<p>★今日の体験からわかったこと、疑問に思ったことをまとめ、次の「問」へとつなげる</p>
2時間	<div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;"> <p>山で作られる栄養について知ろう(情報集収集の力)</p> </div> <p>1. 『山に木を植えました』の本を読み、「フルボ酸」について知る</p> <p>2. 「フルボ酸」つくりの準備をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・枝を拾い、乾燥させる <p>3. ワカメを使った肥料で育てたミニトマトを試食する</p> <p>4. PC を活用し、「フルボ酸」について自分で調べる</p>	<p>★いくつかのポイントに絞って読む</p> <p>★枝はしっかり乾燥させる</p> <p>★糖度計を使い、客観的に味を確認する</p>
2時間	<p>5. ゲストティーチャーと一緒に「フルボ酸」をつくる</p>	<p>☆外部講師の皆さんに教えていただく</p>
1時間	<div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px;"> <p>フルボ酸を活用しよう(表現・発信の力)</p> </div> <p>1. フルボ酸の効果について思い出す。</p> <p>2. フルボ酸の活用方法を考える。</p> <p>3. 活用方法を交流し、発表する。</p>	
<p>他教科等関連項目</p> <p>教科名</p> <p>理科(4年生)「地面を流れる水のゆくえ」(5月)</p> <p>「ものの温度と体積」(11月)</p> <p>理科(5年生)「雲と天気の変化」(10月)</p> <p>国語「意見を聞き合って考えを深め、意見文を書こう」(10月)</p>		

3. 本時のねらい

○海の栄養の由来について考え、今後の活動への興味をもつ。

4. 本時の指導計画

配時	学習活動	☆外部連携 ★指導上の留意点
10分	1. 昨年度の「ワカメの学習」を思い出す ・初め2cm くらいだったワカメが体より大きくなっていた ・ワカメは海の栄養を吸って大きくなる ・栄養はワカメが成長するためにはたくさんの栄養が必要 ・どこから栄養が来ているのかな	★昨年度の活動写真を提示し、ワカメの成長を感じられるようにする。 ★子どもたちの感想を引き出し、海の栄養の由来についての疑問へとつなげる。
25分	2. 海の栄養がどこから来ているのかを考える ・海の中には自然に栄養ができる ・誰かが栄養をまいている ・魚のフンや死んだ生き物が栄養になる (個人→グループ交流→全体発表)	★グループ交流を行うことで、様々な考えにふれられるようにする。 ★次時以降への興味につながるよう、答えは伝えないようにする。
5分	3. ふりかえりをする	★ふりかえりに交流を経た後の、自分の考えを書くようにする。
5分	4. ゲストティーチャーをお招きして教えてもらうことを伝える	★次時の活動の概要を伝え、見通しをもたせる。

5. 成果と課題

子どもたちは普段自分たちが口にする海産物について、「それらを育てる栄養がどこから来るのか」ということを意識したことはなく、非常に興味をもって考える様子が見られた。

ゲストティーチャーをお招きした際に、実際に校内の山を回り、校庭から川・海を見ながらお話を伺ったことで、より実感をもってつながりを感じてる様子であった。

自分たちで肥料を作るという活動にも関心をもつ子が多く、自主的に木の枝を収集し、その最中に他学年にも自分たちの活動を紹介する姿も見られた。

フルボ酸は作り始めてから、実際に利用するまでの期間が少々長く、時間の経過とともに、子どもたちのフルボ酸への意識が薄れているように思われる。その間をつなぐ活動に取り組む必要性が感じられた。

6. 児童の様子・感想



*今日の学習で学んだこと、考えたこと、感じたことを書こう。

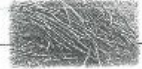
・アルボ酸の色が濃くなるのは標がしみ込んでいる証だと思った。
 ・微生物が、酵素を分解して、長い年月をかり、アルボ酸が出来る。
 ・アルボ酸は、栄養を吸収するの役目か。丈夫に育つことか出来る。



*今日、作ったものは、どんな場面で活かせるだろうか？

・たんきんの山の肥料として、海の栄養につなげる。
 ・海の栄養→プランクトン→魚→人間と、栄養はじり回しているから、様々な動物につなげる。

なるほど!! いいアイデア!!
 いっぱいものに
 なががすね!!



*今日の学習で学んだこと、考えたこと、感じたことを書こう。

あおさや、木の枝がどのようにになると知り他の人も
 どのようになるのかな?と思った。今日学校でなら、
 たんきんのはじめでどうにかせるか考えよう。
 たんきんは、100年くらいでどのように出来るか聞いて
 おどろいたけど、最近では半年でできると知り100年
 から半年でたんきんせむちがうのに、ちがうように
 なるのはすごいなと感じた。あおさがけいんてい
 いろんなことがあると聞いたけど、そのあおさを
 どのように出来るんだから、早くに自然にとってはい
 いことなんじゃないのかなと思った。

*今日、作ったものは、どんな場面で活かせるだろうか？

木の枝などどのようにがつかれるんだら、台風などで
 おれた木の枝をどのようにすることができて、弱くしまよ
 木などをそのようにで元気に出来る
 かな?かと思った。

なるほど!!
 いい利用法だね!!



《海を知る・海を守る》

6年 単元名「大阪湾を守るために自分たちができることを考えよう」(25時間)
 阪南市立舞小学校

1. 単元のねらい

- これまでに行ってきた活動をまとめ、これから海の環境を守っていくために自分に何ができるかを考え、発信する。
- これまでに自分が行ってきた活動をふりかえり、5年生の活動に引き継ぐ。

2. 単元の指導計画

配時	学習活動	☆外部連携 ★指導上の留意点
7時間	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> 自分たちの今までの学びをふりかえろう(課題設定の力) </div> <p>1. これまで学習したことをふりかえる。</p> <p>2. 興味をもった事柄を調べ、理解を深める。</p>	<p>○これまでの学習内容が視覚的に確認できるよう、昨年度までの活動写真などを集め、提示する。</p> <p>○自分が調べてみたいことを意識しながら、ふりかえりを行うよう、事前に確認する。</p> <p>○ワークシートを用いて子どもたちの興味をもった事柄を調べておき、図書館司書にレファレンスをお願いする。</p> <p>○インターネット上の参考になるウェブサイトを事前に調査し</p>

	<p>3. わかったこと、気づいたことを共有する。</p> <p>4. 小グループでテーマに沿って、これまでの学習をまとめる。</p>	<p>ておく。</p> <p>☆お世話になったゲストティーチャーにも質問できるように手配しておく。</p> <p>○今後の学習につながるよう、発表内容の構成を意識させる。</p> <p>○自分の気づきとの類似点や共通点を意識して発表を聴くよう確認する。</p> <p>○「海を守る」という大テーマに基づき、自分たちなりのテーマを決められるよう声かけを行う。</p> <p>○今後の学習につながるよう、自分の考えを加えたまとめを行うことを確認する。</p>
<p>13時間 (本時 6/13)</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">海を守るために自分たちができることを考えよう(課題追求の力)</p> <p>1. 前時までにまとめたことと発信するテーマについて全体で共有する。</p> <p>2. 伝える相手と発表方法、発表内容の概要について考える。</p>	<p>○国語科の学習と関連させ、発表方法の特性についておさえ、適切な発表方法を選択するよう確認</p>

4. 本時の指導計画

配時	学習活動	指導上の留意点
5分	1. 前時の学習をふり返り、 本時の学習課題をつかむ。	
よりよい発表方法を考えよう(課題追求の力)		
15分	2. 発表内容と方法についての 交流を行う。(ワールドカフェ形式)	<p>○他の全てのグループを回れるよう、また1度に同じグループに人数が偏らないよう、移動の仕方を指示する。</p> <p>○ホスト役の児童には、入れ替わり時に伝える内容について適宜指導する。</p> <p>○入れ替わり時に活発に意見交流していたグループを紹介するなどして、他グループの様子がわかるようにする。</p> <p><準備物: 交流用模造紙、カード></p>
10分	3. 交流で出てきた内容を基に、 発表内容と発表方法について 検討する。 ・たくさん文字があるとどこを読めばわからないかもしれないという意見に納得したから、ポスターではなくて、スライド資料にしよう。 ・地域にチラシを貼り出すなら、文字数が多いと伝えたいことがわかりにくいという意見があった。作るときに気をつけよう。	<p>○必ずしも発表内容と方法を変更しなければいけないわけではないことを確認する。</p> <p>○なぜ、その発表方法を選んだのかを根拠をもって説明できるよう、話し合いのねらいを意識させる。</p>
10分	4. 各グループの発表内容と方法について、検討した結果を発表する。 ・私たちのグループでは、実際にどのような活動をしているのかがわかる方がよいという意見を基に、発表資料に動画を入れることにしま	<p>○交流で出てきた意見と、自分たちの検討した結果のつながりがわかるよう、話す内容を考えさせておく。</p>

5分	<p>した。</p> <p>5. 本時のふりかえりを行う。</p>	<p>○前時まで考えていた発表内容・方法との変化についても述べるよう、ふりかえりをする前に指示する。</p>
----	-----------------------------------	--

5. 成果と課題

子どもたちは自分たちの生活に深くかかわる「海」を守るために、何を発信し、何に取り組んでいけばよいのかを深く考えている様子が見られた。自分たちではとりかかることのできない大きな取り組みだけでなく、身近に取り組むことのできる取り組みも考え、それらを効果的に発信する方法を相談し、形にすることができた。発信する媒体も、検討が必要な部分が多々あったが、子どもたちなりによりよい方法を追求することができたように思われる。

中には自分たちの学びが発信内容に結び付けきれないグループもあり、これまでの活動のふりかえりが不十分なところや、発信内容の検討が足りない部分があり、今後の課題としたい。

6. 児童の様子・感想

